

3.11 を契機とする地域の健康福祉システムの再構築
ー「集中復興期間」後の展開ー

大学シーズと地域ニーズのマッチングによる
効果的な地域震災復興支援策の模索
～仙台市荒井地区の復興公営住宅を中心に～

平成 30 年度報告書

平成 31 年 2 月

東北福祉大学感性福祉研究所

大学シーズと地域ニーズのマッチングによる効果的な地域震災復興支援策の模索 ～仙台市荒井地区の復興公営住宅を中心に～(平成 30 年度報告書)

下山田鮎美¹⁾、中江秀幸²⁾、相馬正之²⁾、稲垣成昭²⁾、萩野寛雄³⁾

- 1) 東北福祉大学健康科学部保健看護学科
- 2) 東北福祉大学健康科学部リハビリテーション学科
- 3) 東北福祉大学総合福祉学部福祉行政学科

I.はじめに

平成 23(2011)年 3 月 11 と日に発生した東日本大震災から、まもなく 8 年が経過しようとしている。宮城県によると¹⁾、平成 30(2018)年 11 月 11 日現在、県内の被害状況は、人的被害が、死者 10,564 人、行方不明者 1,222 人、重傷 502 人、軽傷 3,615 人、住家・非住家被害が、全壊 83,004 棟、半壊 155,130 棟、一部破損 224,202 棟、床下浸水が 7,796 棟、非住家被害 26,796 等であり、被害額(継続調査中)は 9 兆 984 億円である。

このような状況を踏まえ、宮城県では、震災復興計画¹⁾が策定されており、平成 30 年(2018)度は、「発展期」の初年度に位置付けられている。この「発展期」は、「県勢の発展に向けて戦略的に取組を推進していく」とされ、政策推進の基本方向として、「震災復興の総仕上げ～力強くきめ細やかな復興の推進～」、「地域経済の更なる成長」、「安心していきいきと暮らせる宮城の実現」、「美しく安全なまちづくり」の 4 つが設定されている。

そして、復興に向けた主な取り組みとして、「被災者の生活再建を進め、安心して暮らすことのできる良好な生活環境を確保するとともに、環境保全など現代社会を取り巻く諸課題に対応した社会の形成」を目指し、災害公営住宅が整備され(県内 21 市町で 15,570 戸・進捗率 98.4%、仙台市 3,179 戸・進捗率 100%)、防災集団移転促進事業が実施されている(195 地区・造成工事着手率 100%)¹⁾。応急仮設住宅入居戸数のピークが平成 24(2012)年現在の 47,861 戸¹⁾であったことを踏まえると、

約 33%が災害公営住宅に住まいを移し、生活を営んでいることが推測される。

そのような動向を踏まえ、宮城県では、平成 27(2015)年度より、災害公営住宅入居者の健康調査²⁾が実施されている。この調査は、「応急仮設住宅等から災害公営住宅に入居するに伴って、様々な健康問題の発生が懸念されることから、入居者の健康状況を把握し、要フォロー者を必要な健康支援に結びつけるとともに、施策展開の基礎資料すること²⁾」を目的としたものであり、世帯の状況、体調、相談相手の有無、要介護認定の状況等 15 項目について調査が行われている。例えば平成 29(2017)年度の調査結果において²⁾、世帯人数は「1 人」が 46.8%と最多、独居高齢者世帯の全世帯に占める割合が 29.5%、職業は「無職」が 43.8%と最多であった。また、疾病の状況は「病気になる」が 62.6%、体調は「あまり良くない」「とても悪い」が 22.5%、不安、抑うつ指標(K6)で 13 点以上が 8.4%、65 歳以上に占める要介護・要支援認定者の割合は 15.9%であった。さらに、不眠の状況は「眠れない」が 16.7%、飲酒の状況は「朝又は昼から飲酒することがある」が 2.3%、相談相手の有無「いない」が 21.5%、行事への参加状況が「参加していない」が 59.4%であった。

また、沖永ら³⁾は、災害公営住宅に住む高齢者の諸問題として、「5 年かけて培った仮設生活への順応と、共に耐えてきた近隣住民との絆のリセット」「高い高齢化率と、高齢入居者の殆どが老々ないし独居」「“終の棲家”としての災害公営住宅…予定外の老後」「先祖代々の、または汗して働いて得た土地や家屋な

ど、物的な喪失」「楽しく家族と過ごした過去との決別など、精神的な喪失」「生きる目的が曖昧な日々(生きがい)、社会との疎遠化と孤立化(社会的役割)」「慣れない高層集合住宅」「仮設高齢者の認知機能は比較的低下傾向…そのまま災害公営住宅に移住」の 8 つを挙げている。

これらのことを踏まえると、災害公営住宅に入居する被災者の生活の質には、疾病の有無や健康状態に加え、物理的環境、世帯の状況、生活習慣、他者との交流等、さらには生きる意味や目的までもが関連していることが推測される。

さて、本研究グループでは、平成 29(2017)年度より、仙台市荒井地区の災害公営住宅を中心とした、大学シーズと地域ニーズのマッチングによる効果的な地域震災復興支援策を模索している。仙塩広域都市計画、仙台市荒井土地区画整理事業竣工記念紙⁴⁾によると、荒井地区は、広大な田園地域から急激に市街化が進行した地域であり、昭和 61(1986)年度から平成 30 年度にかけて土地区画整理事業が行われた。加えて、平成 23(2011)年に発災した東日本大震災からの復興においては、公園や小学校予定地に応急仮設住宅が整備されると共に、防災集団移転地区の整備が進められ、防災集団移転による住宅、災害公営住宅(集合住宅・戸建住宅)が建設された。さらには、平成 27(2015)年 12 月の仙台市地下鉄東西線開業に伴い「荒井駅」が新設され、多く一般住宅も建設されている。

このことは、災害公営住宅に居住している被災者が、沖永ら³⁾があげた 8 つの諸問題に加え、まち自体が発展途上であること、多様な背景を有する住民が生活圏を一にすることに関する生活課題さらには健康課題を抱えている可能性を示唆するものである。

そこで、本研究グループは、2018(平成 30)年度の研究活動として、効果的な地域震災復興支援策を策定するための基礎的資料を得ることを目的に、公衆衛生看護学における「地域診断⁵⁾⁶⁾」の手法を活用し、荒井東災害公営住宅に居住する住民の健康課題とその構造に関する情報収集ならびに分析を行った。

II. 研究方法

1. 地域診断とは⁶⁾

1) 定義

地域診断とは、住民の健康状態や生活および生活環境の実態を把握し、健康課題とその背景、関連する資源や強みを明らかにして、地域で取り組むべき健康課題を特定することであり、課題解決の方法を見出すプロセスであり技術である。

2) 地域診断の過程

地域診断は、「データ収集・分析」、「健康課題の特定から計画策定」の 2 段階を経て実施される。1 段階目の「データ収集・分析」においては、①既存の情報収集・分析、②質問紙調査、③観察・インタビューなどが実施され、得られたデータをもとに、2 段階目の「健康課題の特定から計画策定」が実施される。

2. データ収集および分析方法

2018(平成 30)年度は、荒井東災害公営住宅に居住する住民の生活圏である荒井地区(荒井 1 丁目から 8 丁目、荒井東 1 丁目から 2 丁目、荒井南)を対象とし、以下の 3 つの観点から、地域診断の過程における「既存の情報収集・分析」を行った。

1) 荒井地区の人口構造の特徴について

仙台市公式 Web サイト「統計情報せんだい⁷⁾」に掲載されている仙台市住民基本台帳を用い、荒井地区に関するデータを収集し、表と図に整理した。また、同 Web サイトに掲載されている「地域情報ファイル(七郷小学校区)⁸⁾」「小学校学区マップ⁹⁾」「七郷小学校-地域の概要⁻¹⁰⁾」からも関連するデータを収集した。

そして、研究グループメンバーで検討し、得られたデータの特徴を見出した。

2) 荒井地区の各種生活資源の特徴について

ゼンリン住宅地図¹¹⁾から荒井地区を抽出し、各種地図記号を参考にしながら、当該地域の物理的環境を把握した。また、荒井東災害公営住宅に居住する住民の生活圏に着目し、各種生活資源(店舗、金融機関、保健・医療・福祉機関、治安機関、交通機関等)のマッピングを行った。

さらに、「七郷中学校区版認知症ケアパス¹²⁾」「地域情報ファイル(七郷小学校区)⁸⁾」「仙台市交通局運行系統図¹³⁾」からも保健・医療・福祉機関、地域活動団体等)に関するデータを収集した。

そして、これらのデータを踏まえ、荒井東災害公営住宅(荒井東市営住宅)¹⁴⁾からの距離、徒歩での移動時間を、Google map を用い算出し、各種生活資源へのアクセスの可能性について、研究グループメンバーで検討した。

3)荒井地区に関する出来事について

河北新報データベース¹⁴⁾を用い、「荒井東」をキーワードとして記事を検索し、全紙面を精読した。そして、収集した記事から、荒井地区に関する出来事や話題を抽出し、東日本大震災に関するものと荒井地区の開発・まちづくりに関するものに分類した。

そして、研究グループメンバーで、荒井地区に関する出来事に対する荒井東災害公営住宅に居住する住民の意味づけについて検討した。

3.研究期間

研究期間は、2018 年(平成 30)年 6 月から 2019 年(平成 30)年 1 月であった。

4.倫理的配慮

本研究において分析に用いたデータは、すべて既存資料から抽出したものである。そのため、引用に際しては、出典を明示するようにした。

II.研究結果

1.荒井地区の人口構造の特徴について

仙台市住民基本台帳⁷⁾によると、2018(平成 30)年 10 月 1 日現在で、人口が最も多いのは、荒井 7 丁目で 2,098 人、次いで荒井 4 丁目 1,688 人、荒井南 1,488 人、荒井東市営住宅がある荒井東 2 丁目は 999 人であった。年齢 3 区分別人口では、いずれの地域も生産年齢人口が最も多いが、荒井東 2 丁目は、老年人口も 401 人と多かった(図 1)。

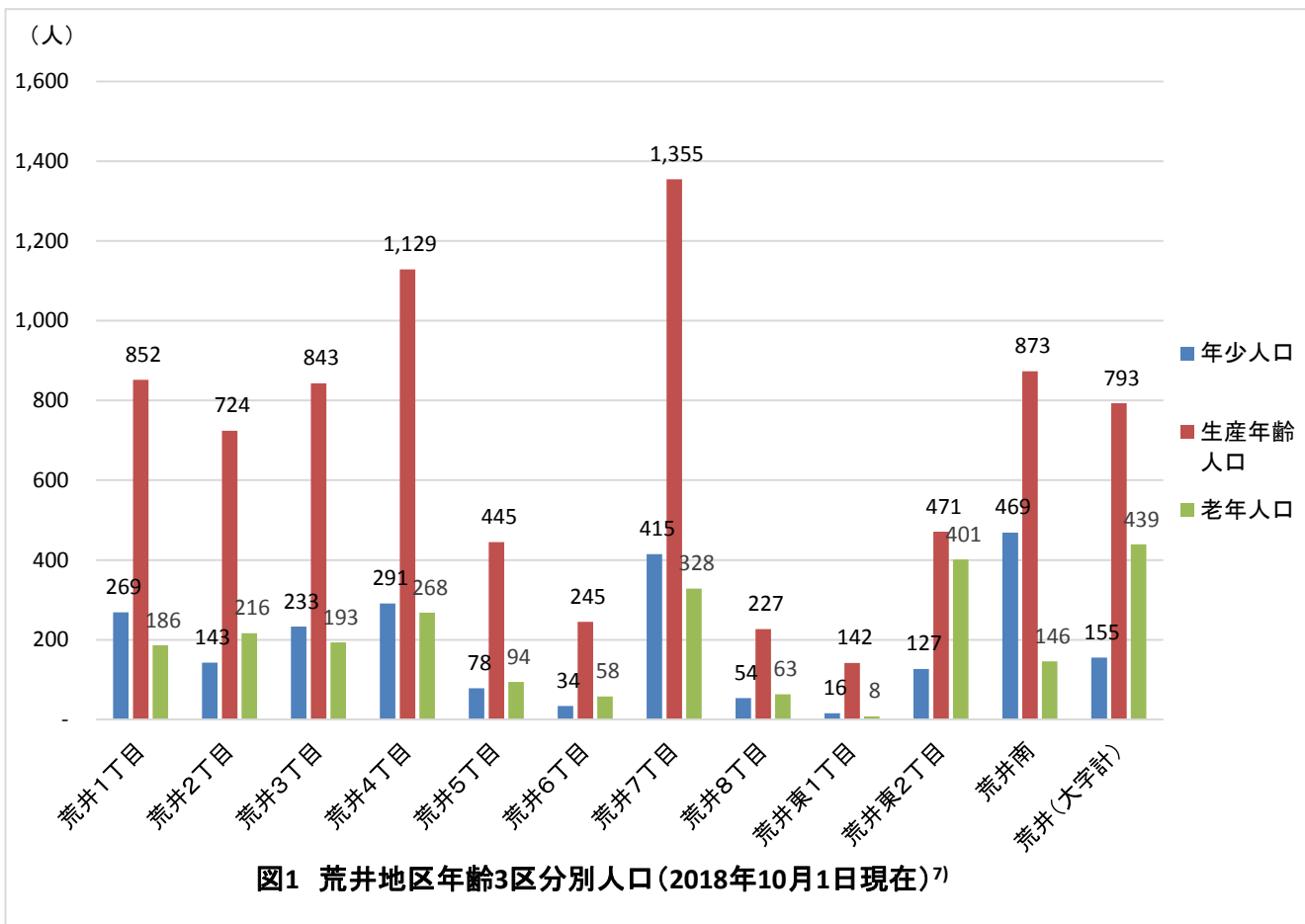
年齢 3 区分別人口割合で見ると、荒井 1 丁目から

8 丁目においては、似た傾向を示すが、荒井駅に最も近い荒井東 1 丁目は生産年齢人口割合が 85.5%と非常に高く、荒井東市営住宅がある荒井東 2 丁目は老年人口割合が 40.1%と非常に高かった(図 2)。

老年人口割合が非常に高い荒井東 2 丁目について、5 歳階級別人口を確認したところ、65 歳から 60 歳の男性が 61 名と最も多く、次いで 90 歳以上の女性が 53 人、65 歳以上の女性が 47 人となっていた(図 3)。

さらに、荒井東 2 丁目の 65 歳以上について、1 歳階級別人口を確認したところ、最も多いのは 68 歳男性で 16 名、次いで多いのは 69 歳男性と 66 歳女性で 13 名、65 歳男性と 81 歳女性で 12 名であった。性別別の傾向としては、男性は前期高齢者、女性は後期高齢者の人数が多かった(図 4)。

また、仙台市地域情報ファイル(七郷小学校区)⁸⁾の人口総数および世帯数について、旧荒浜小学校との統合以降の推移をみても、著しく増加している地域であることが示されていた(図 5)。



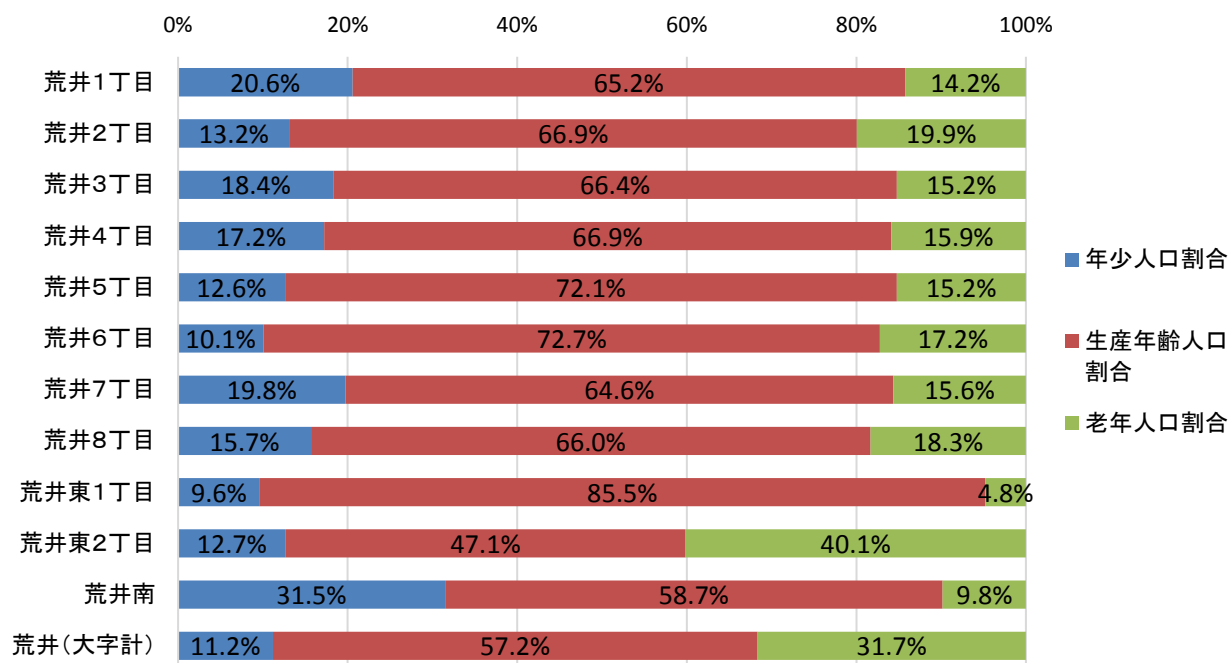


図2 荒井地区年齢3区分別人口割合(2018年10月1日現在)⁷⁾

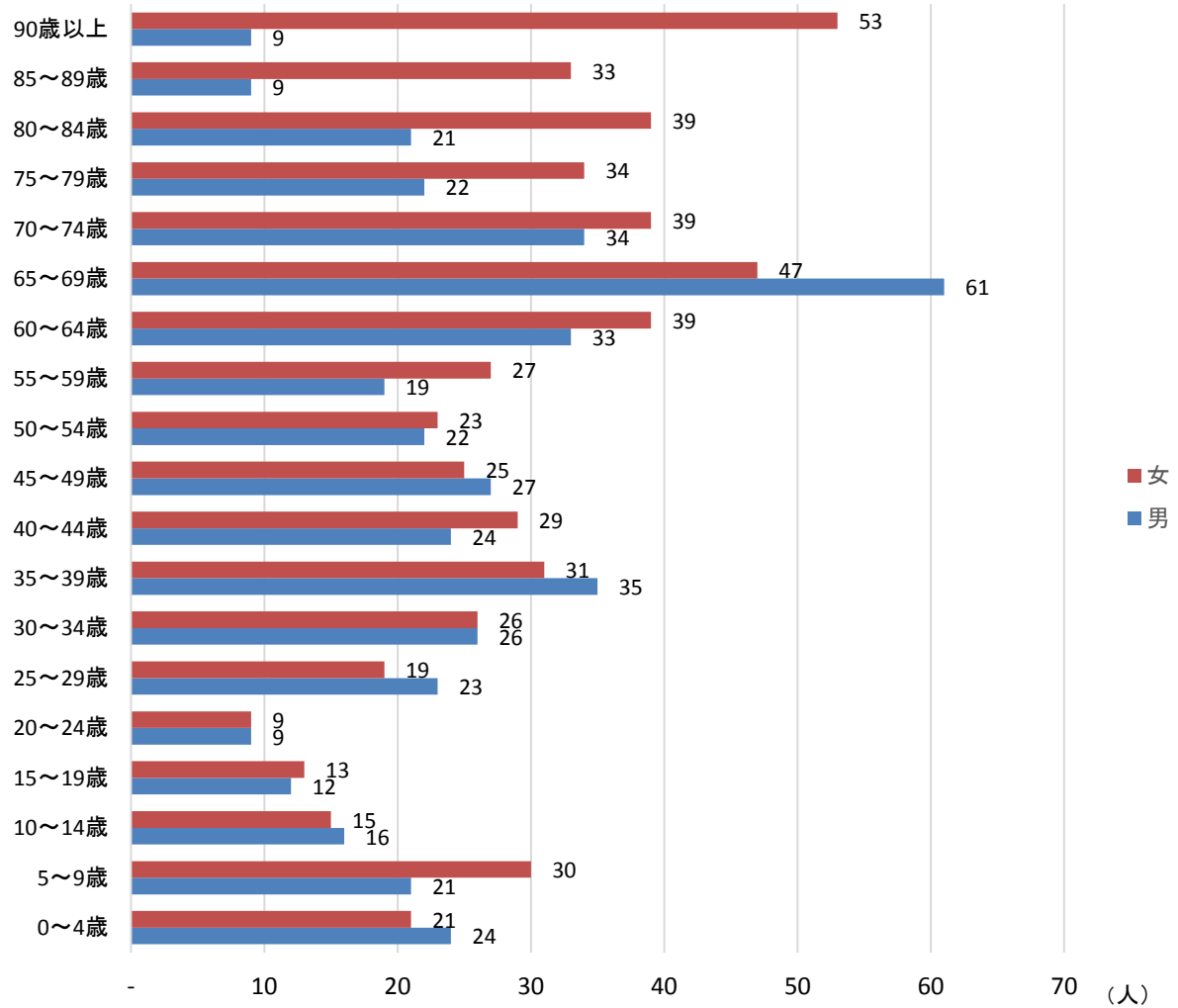
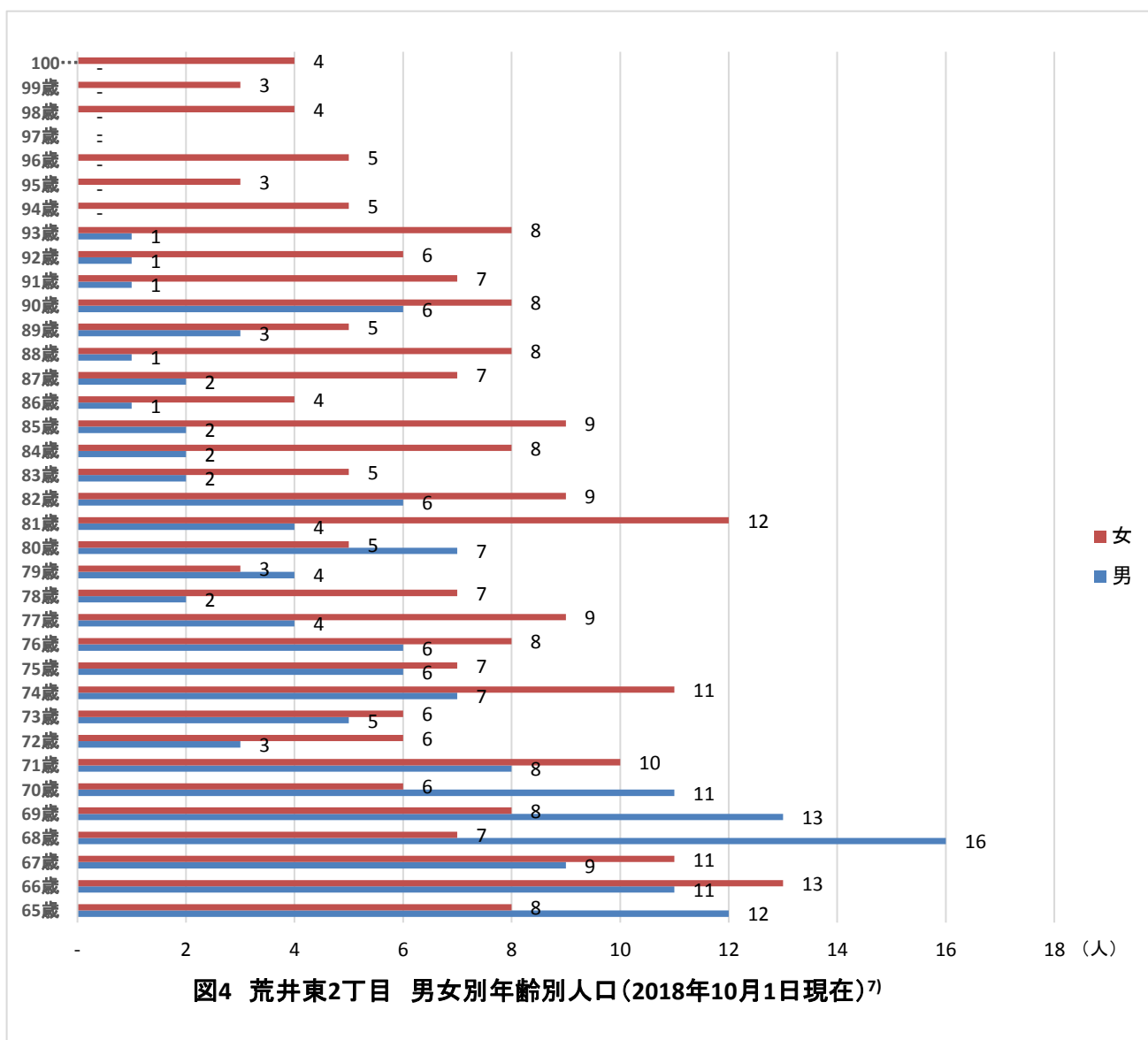
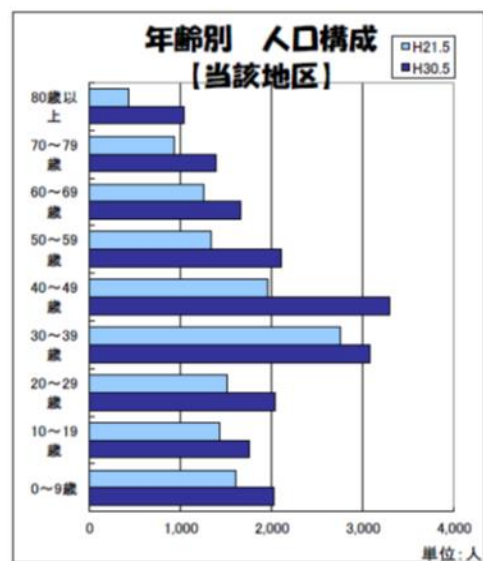
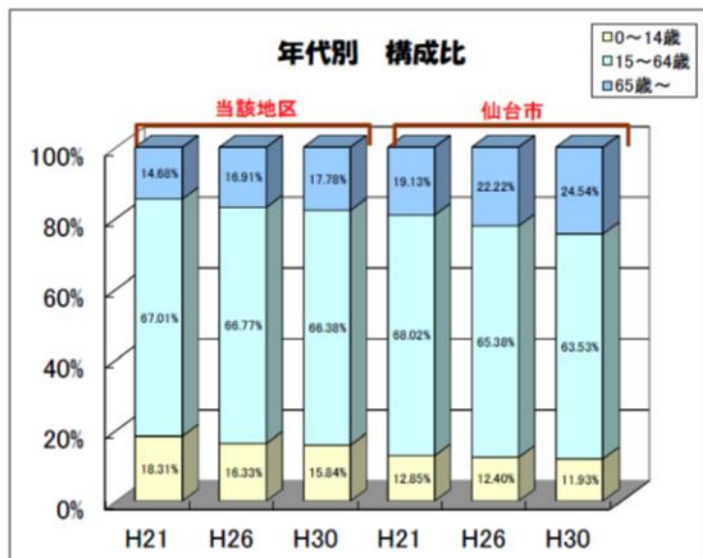


図3 荒井東2丁目男女別年齢別(5歳階級別)人口(2018年10月1日現在)⁷⁾





年齢別(5歳)人口

	合計	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳
平成21年	13,179	736	868	809	624	625	883	1,240	1,510
平成30年	18,335	964	1,054	886	865	877	1,153	1,498	1,575

	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上
平成21年	1,117	836	656	674	666	586	536	393	420
平成30年	1,704	1,581	1,162	945	811	844	735	649	1,032

七郷 小学校区

掲載人口等については、各年5月1日現在の住民基本台帳を基に集計・加工したものです。一つの目安としてご活用下さい。

※「65歳以上人口及び高齢化率」の表中、区の値については平成30年4月1日現在の住民基本台帳人口です

世帯数及び世帯構成員数

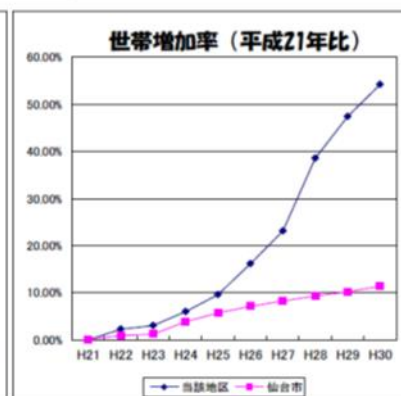
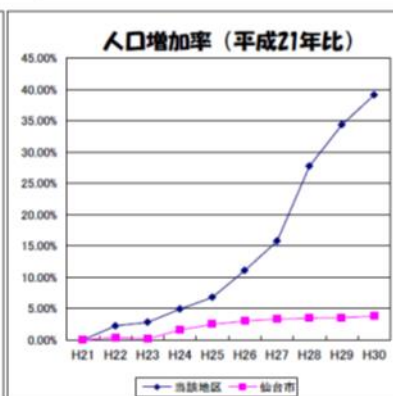
	七郷学区	若林区	仙台市
世帯数	7,878	64,862	501,042
構成員数	2.33	2.11	2.09

65歳以上人口及び高齢化率

	七郷学区	若林区	仙台市
65歳以上人口	3,260	29,866	257,264
うち75歳以上人口	1,681	14,346	127,920
高齢化率	17.78%	22.18%	24.54%

男女別総人口及び構成比

	総人口	比率
男性	9,173	50.0%
女性	9,162	50.0%



※平成 28 年 4 月に荒浜小学校と統合。平成 21 年、平成 26 年のデータは、旧荒浜小学区を除くデータ。

図 5 地域情報ファイル (七郷小学校区) ⑧



図6 七郷小学校区⁹⁾

地域の概要

七郷の名称は、1889（明治22）年、市町村制実施の際、南小泉・霞目・長喜城・伊在・蒲町・六丁目・荒井・荒浜等荒井七郷といわれる地域を合併して七郷と称したことに由来する。ほかに、この地方の灌漑用水として、広瀬川から分流する七郷堀に起因しているともいわれる。

本校は、1873（明治6）年6月24日、第七大学区第一中学区第九小学区荒井小学校として、荒井不動尊旧法性寺（現七郷神社）に創設され、児童数252名、教員3名で開校した。近在の荒浜、南小泉の各小学校に比べると最も規模が大きく、教育、文化の中心的存在であった。以後何度か校名の変更、校舎の増改築、教育内容の変遷を経て、140年を超える歴史と伝統のもと今日に及んでいる。

地域は、若林区の東部に開けた純農村単作地帯だったが、学区西部に国道4号線（仙台バイパス）、北部六丁目の目地区に産業道路（県道仙台塩釜線）が開通したことにより、田園地帯は一変し、印刷団地、鉄工団地、自動車団地が設立され、仙台湾工業地帯となった。その後、学区西部・北部より都市化が進み、1981（昭和56）年4月、本校及び遠見塚東部を学区とする蒲町小学校が創設された。

平成になると、仙台東部道路が学区の東部を貫通し、六丁目にインターチェンジができ、学区の北部は流通に関連する事業所が増えていった。加えて、仙台市によって荒井土地開発事業が始められ、学校の北側は区画整理が進んで道路も一新し、住宅も増えてきた。

2011（平成23）年3月11日の東日本大震災（七郷地区は震度7）により大きな被害を受け、学区内の一部の地域は津波による被害も受けた。体育館は使用できなくなり、プレハブ校舎は全壊した。

2012（平成24）年からは、津波被害を受けた人々の住居確保と地下鉄東西線の開通に向けてのまちづくりの一環として、荒井南地区の区画整理事業が始まった。

このような変化の大きい中であって、地区民の教育に対する関心は高く、PTA、市民センター、各町内会などが中心となって地域児童の健全育成のための活動と文化諸活動に一元となって活動している。

2013（平成25）年には、校庭に9教室のプレハブ校舎が再建された。開校140周年を迎え、校舎及び地域の航空写真を撮影するとともに、記念式を行った。同年、文部科学省から4年間の研究開発学校の指定を受け、職員が一丸となつての新領域「防災安全科」の開発への取り組みが始まった。

2014（平成26）年には、全学年が「防災安全科」の授業に取り組み、20時間の授業を行った。9月には、七郷中学校区学校地域合同防災訓練を実施し、小学校、中学校、保護者、七郷幼稚園児・保護者、地域住民など、推計2400名以上が参加した。

2015（平成27）年には、「防災安全科」の中間公開研究会を実施した。仙台市地下鉄東西線が開通するとともに、荒井東地区の復興住宅及び荒井南地区の住宅への入居も始まった。子ども会は新しい組織づくりが始まる。

2016（平成28）年11月には、「防災安全科」の公開研究会を実施した。4年間、職員一丸となつて「防災安全科」の研究に取り組んだことが評価され、3月には、文部科学大臣優秀教職員表彰（教職員組織部門）受賞した。

図7 地域の概要（七郷小学校区）¹⁰⁾

2.荒井地区の各種生活資源の特徴について

(図 8～図 18、表 1～4)

荒井地区の物理的環境として、県道(荒井荒町線、荒浜原町線)及び主要な市道には歩道、横断歩道、信号機が整備されており、ほぼ平坦であった。

住宅の形態としては、集合住宅が多いエリア、集合住宅と戸建て住宅が混在するエリア、戸建て住宅が多いエリアに分類された。市営地下鉄荒井駅に近い荒井東 1 丁目は集合住宅が多く、荒井 6 丁目と荒井 3 丁目、荒井 7 丁目西側は集合住宅と戸建て住宅が混在、荒井 7 丁目東側、荒井 8 丁目および荒井東 2 丁目は戸建て住宅が多かった。荒井東地区には荒井東災害公営住宅(集合住宅型)として荒井東市営住宅があり、その周囲は、ほぼ戸建て住宅という状況であった。

災害公営住宅として整備された荒井東市営住宅は、2015(平成 27)年 2 月に完成した 1 棟、2015(平成 27)年 5 月に完成した 1 棟の全 2 棟で構成されており、いずれも階数は 11 階、敷地中央に地域住民の交流拠点となる開放型広場および集会場が設置されていた。

また、荒井東災害公営住宅(荒井東市営住宅)を拠点とし、居住する住民の各種生活資源を確認したところ、商業施設は、スーパーマーケット、ドラッグストア、

コンビニエンスストア、レストランが徒歩 5 分圏内、保健・医療・福祉施設は、地域包括支援センターが徒歩 5 分圏内、病院・介護老人保健施設が徒歩 10 分圏内、クリニックが徒歩 15 分圏内、「交流・息抜きが出来る場所」として設定された各種活動も徒歩 10 分圏内で多く行われていた。郵便・金融施設は、銀行・郵便局が徒歩 10 分圏内となっていた。仙台市南警察署荒井交番が距離 1.7Km、徒歩 21 分と遠方であるが、建設中の若林警察署の完成に伴い、治安施設も徒歩 10 分圏内となる予定である。教育機能と行政機能を併せもつ七郷市民センターは徒歩 20 分圏内となっており、他の社会資源と比較し、移動に時間を要する状況であった。

交通機関へのアクセスとしては、荒井東二丁目および荒井八丁目バス停が徒歩 5 分圏内、地下鉄荒井駅が徒歩 15 分圏内となっていた。バスは利用可能な系統が 2 系統あり、荒井駅を経由し、七郷市民センター、若林区役所、仙台駅へとアクセス可能なルート、六郷地区を経由して仙台駅へとアクセス可能なルートがあった。地下鉄東西線は、荒井駅から仙台駅まで 6 駅、所要時間は 6 分となっていた。

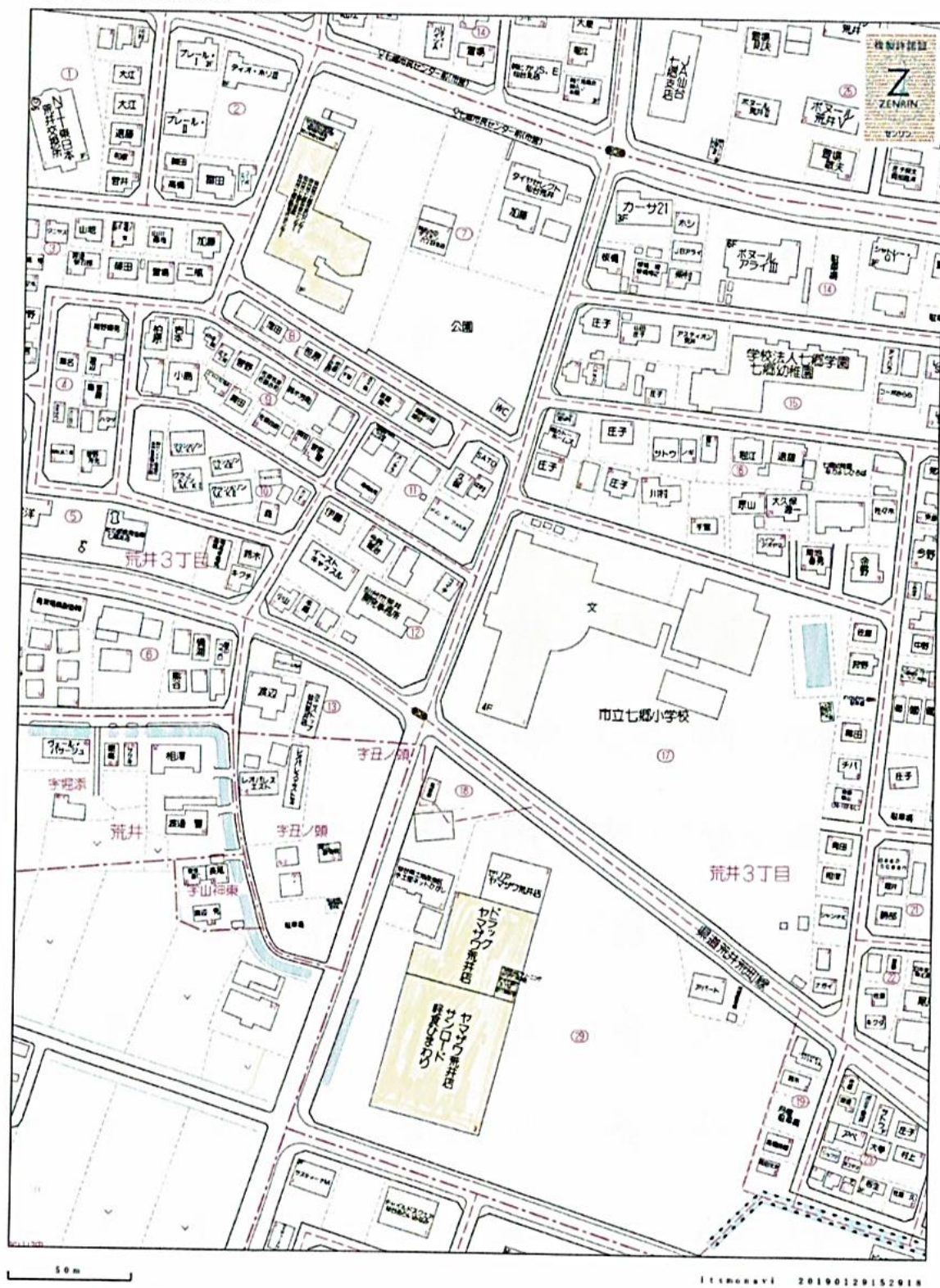


図8 若林区荒井3丁目付近¹⁾

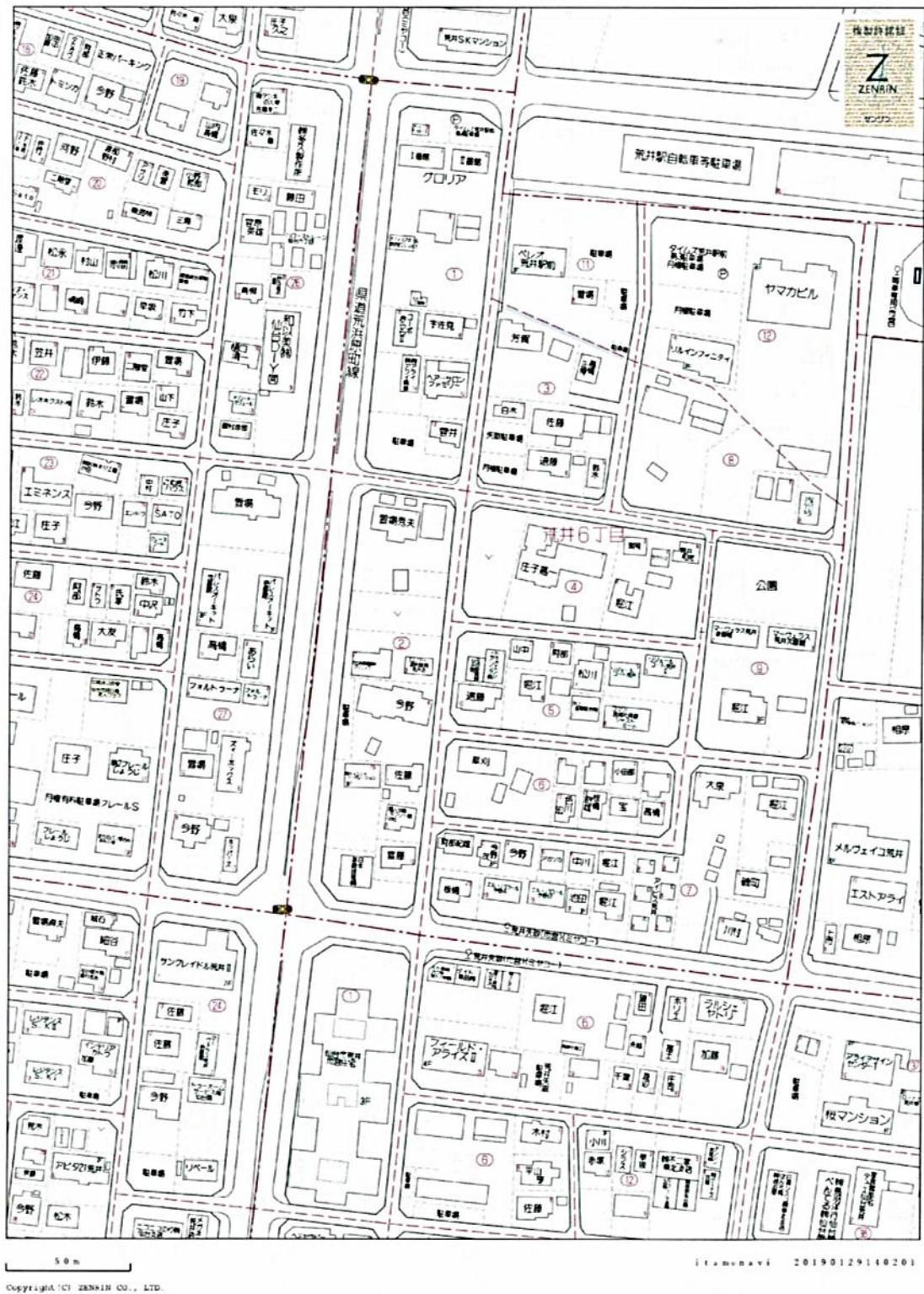


図9 若林区荒井6丁目付近¹⁾

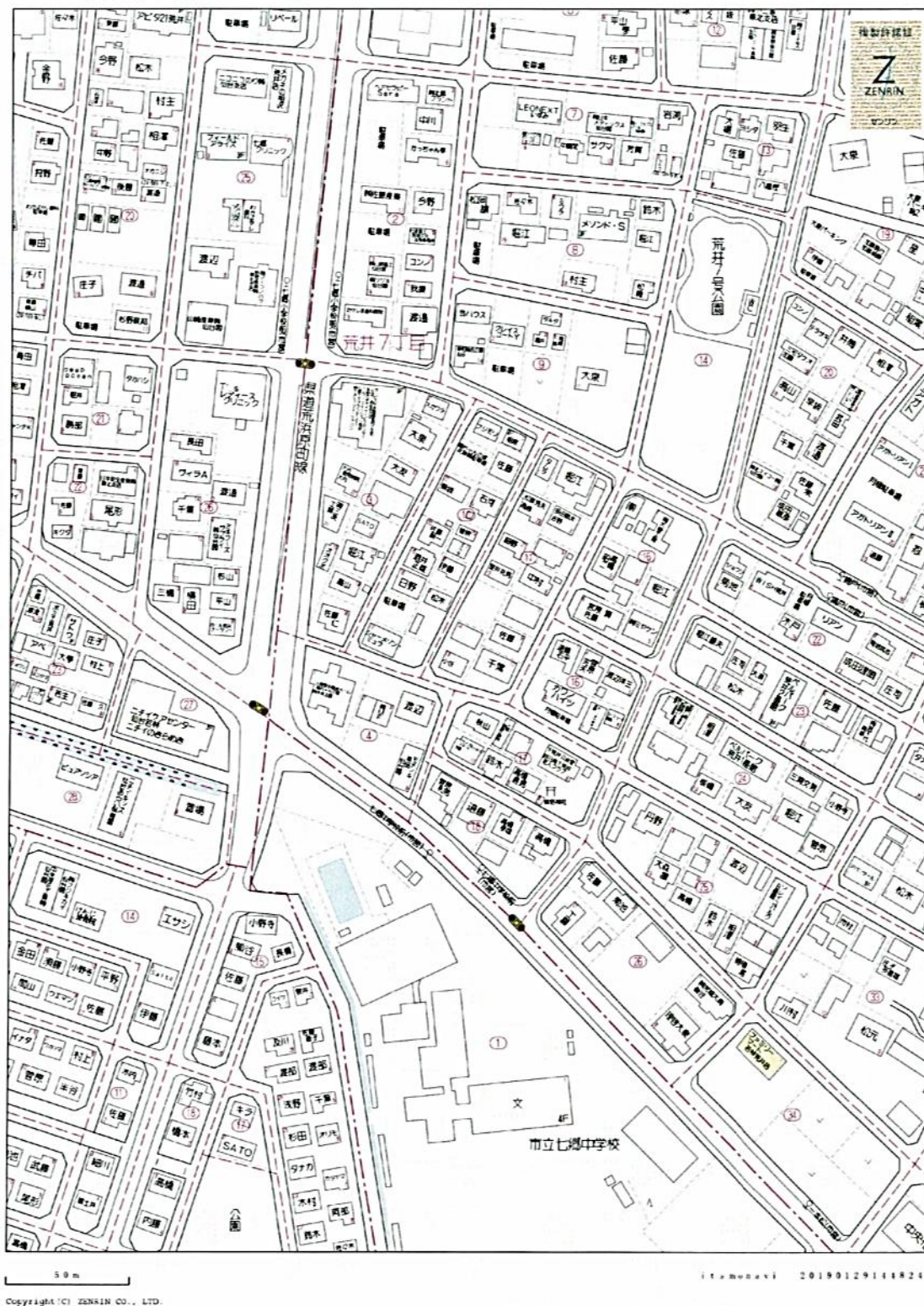


図 10 若林区荒井7丁目付近¹⁾



図 11 若林区荒井東1丁目付近¹⁾

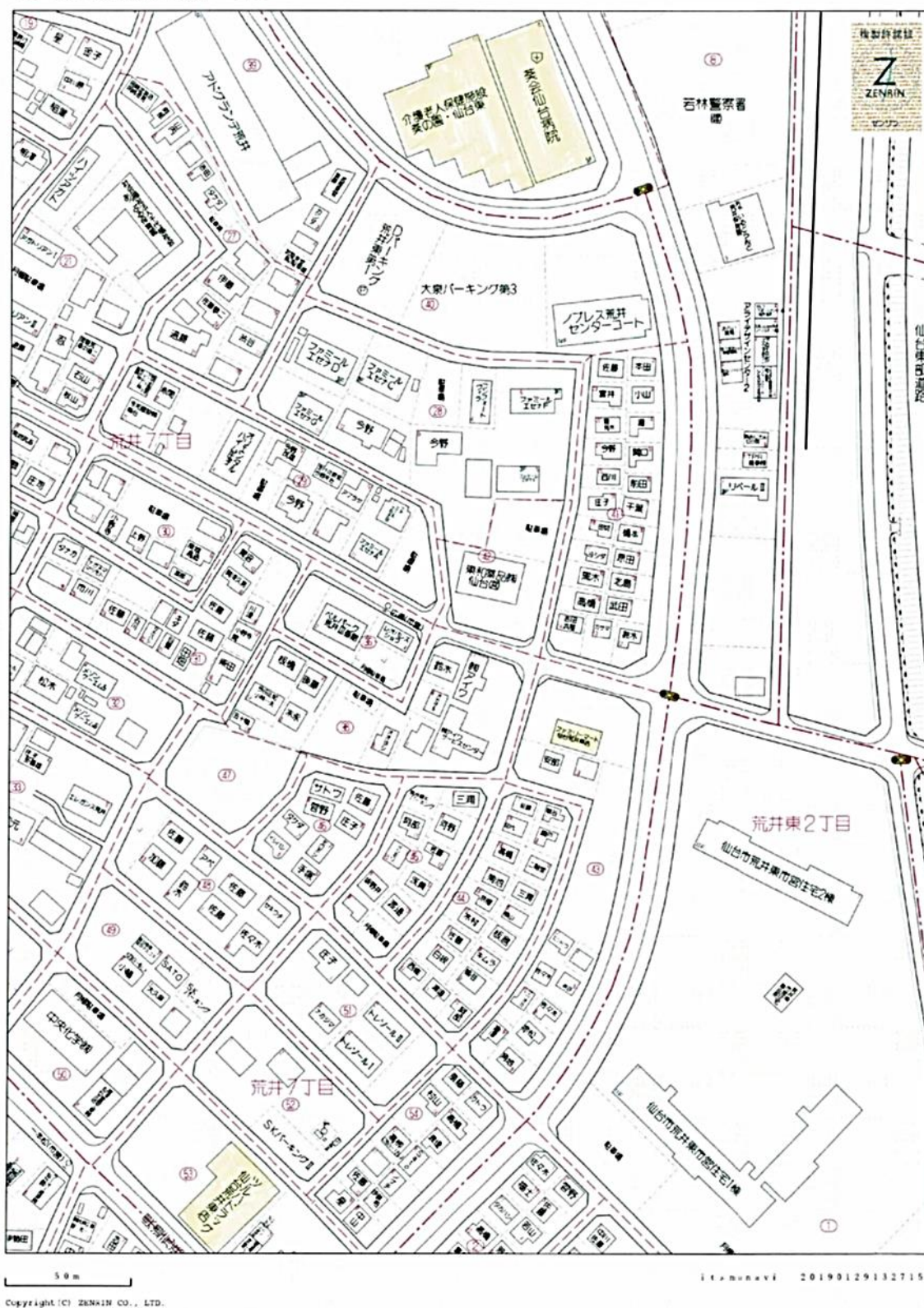


図 12 若林区荒井7丁目、荒井東2丁目付近¹⁾

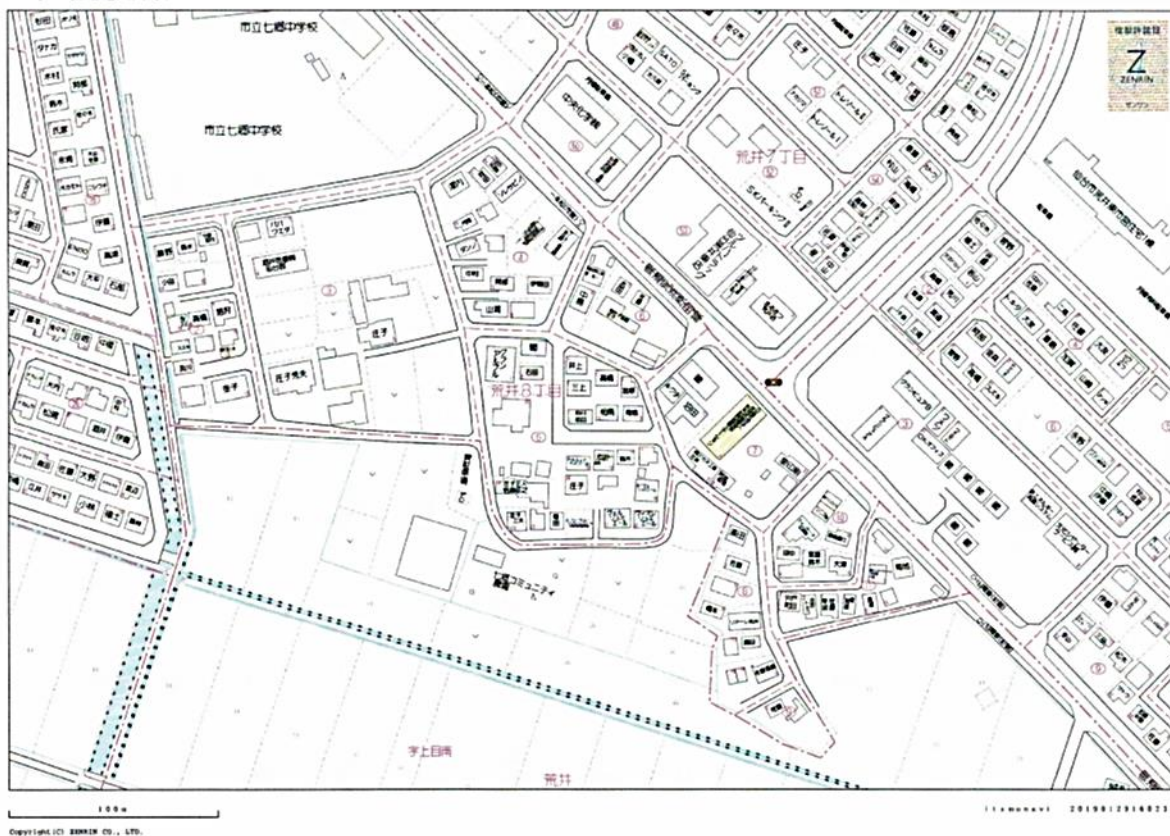


図 13 若林区荒井 7 丁目、荒井 8 丁目、荒井東 2 丁目付近 ¹⁾

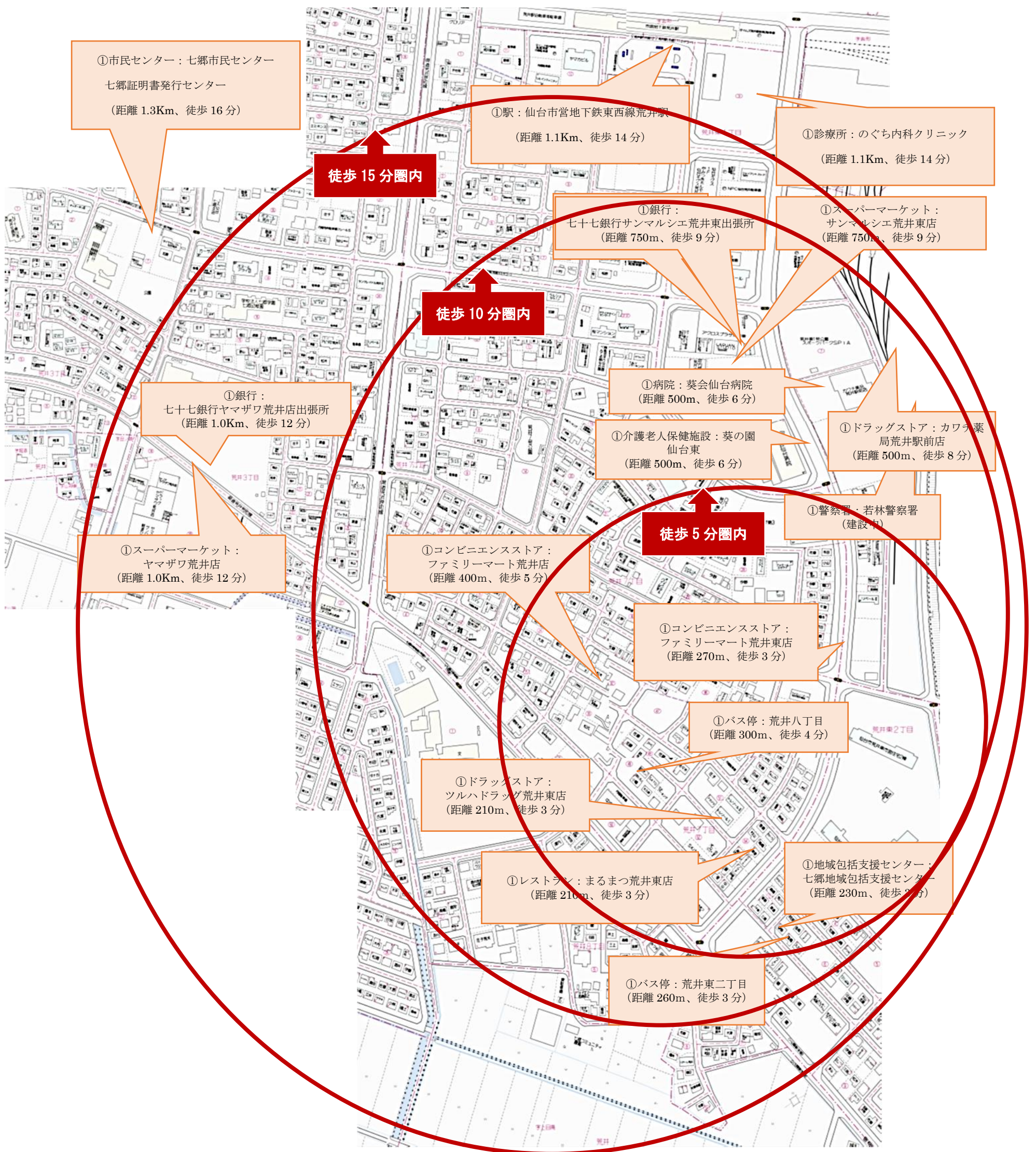


図 14 仙台市荒井災害公営住宅に居住する住民の生活圏および主要な生活資源

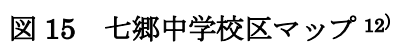
[illegible]

表 1 介護保険事業所¹²⁾

◆◆介護保険事業所◆◆				
■居宅介護支援事業所：ケアプラン作成ができるケアマネジャーがいます。サービス利用についての相談ができます。				
事業所名	住所	電話番号	その他	地図
ケアパートナー若林	荒井1-12-19	390-6650	営業日：月～金曜日(8:30～17:30)	①
リハビリパーク仙台東	長喜城字宮浦26	287-5500	営業日：月～金曜日(9:00～17:30)	②
ニチイケアセンター若林	伊在3-6-1 ホワイトアーバンシティ107	390-5880	営業日：月～金曜日(9:00～18:00)	③
サテライトケアセンター仙台東	六丁の目北町14-61	288-3370	営業日：月～金曜日(8:30～17:30)	④
七郷ケアプランセンター	荒井7-3-1	390-0227	営業日：月～金曜日、祝日(9:00～17:30)	⑤
小規模多機能ホーム福ちゃんの家	荒井7-4-1	352-7613	営業日：月～金曜日(8:30～17:30)	⑥
LDF 居宅介護支援事業所	荒井7-4-1	352-7613	営業日：月～金曜日(9:00～17:00)	⑥
仙台東あおい ホームケアサービス	荒井東1-6-11	380-1176	営業日：月～金曜日(8:30～17:30)	⑦
若林訪問看護ステーション	荒井8-7-4	352-3324	営業日：月～金曜日(8:30～17:15) 土曜日(8:30～12:15)	⑧
杜の里居宅介護支援センター	荒井東2-12-1	289-9777	営業日：月～金曜日(8:30～18:00)	⑨
■通所介護(介護認定必要)：本人の心身の状態に合わせて、交流や体操をすることが出来ます。				
事業所名	住所	電話番号	その他	地図
ケアパートナー若林	荒井1-12-19	390-6650	日常の習慣を大切にしています	①
サテライトケアセンター 仙台東通所介護事業所	六丁の目北町14-61	288-3372	健康作りや認知症予防の運動を実施	④
はるかぜデイサービスセンター	荒井7-3-1	390-0223	1人1人に合った運動を提供	⑤
元氣ジム仙台東荒井	荒井東1-8-4 アライデザインセンター2東棟	355-7061	認知機能を高めるシナプソロジーを導入	⑩
さんだんの丘ぶらすあらい	荒井東1-8-4 アライデザインセンター2東棟	794-8416	皆様の『したい』を応援します	⑪
■通所リハビリテーション(介護認定必要)：医師の指示に基づき、本人の心身状態に合わせたリハビリを行います。				
事業所名	住所	電話番号	その他	地図
介護老人保健施設リハビリパーク仙台東	長喜城字宮浦26	287-5500	要望に応じた対応可能	②
介護老人保健施設葵の園・仙台東	荒井東1-6-11	288-6366	笑顔あふれるリハビリを提供	⑦
■訪問介護(介護認定必要)：買い物や掃除、入浴など日常生活の支援を行います。 ※制度上対応できない内容もございます。				
事業所名	住所	電話番号	その他	地図
ニチイケアセンター若林	伊在3-6-1 ホワイトアーバンシティ107	390-5880		③
LDF 訪問介護事業所	荒井7-4-1	352-7613		⑥
■小規模多機能型居宅介護(介護認定必要) サービス拠点への通いを中心に随時訪問や泊りを組み合わせ、入浴や食事、日常生活の支援や機能訓練を行います。				
事業所名	住所	電話番号	その他	地図
小規模多機能ホーム福ちゃんの家	荒井7-4-1	352-7613		⑥
■福祉用具(介護認定必要)：歩行器や手すり、車イスや介護用ベッドなどを扱っています。				
事業所名	住所	電話番号	その他	地図
株式会社多田木工製作所 ウェルランド仙台店	伊在3-4-1 ディオホルマンションⅡ号棟102	390-6290	介護認定によって、レンタルできない商品あり	⑫
■認知症高齢者グループホーム(介護認定必要)：認知症により要支援2以上の認定を受けている方が対象。				
事業所名	住所	電話番号	その他	地図
くつろぎ保養館仙台東	長喜城字宮浦27-5	287-2105		②
■介護老人保健施設(要介護1～5の認定が必要) 病状が安定し、入院治療の必要性はないが、リハビリに重点を置いたケアが必要な高齢者などに対して機能訓練や必要な医療並びに日常生活上の介護を提供し、家庭への復帰を支援します。				
事業所名	住所	電話番号	その他	地図
介護老人保健施設リハビリパーク仙台東	長喜城字宮浦26	287-5500	多床室100床、ユニット型個室20床あり	②
介護老人保健施設葵の園・仙台東	荒井東1-6-11	288-6366	皆様のこれからを支えています	⑦
■特別養護老人ホーム(要介護3以上の認定が必要) 身体上あるいは精神上の障害の為、自宅での生活が困難であり、常時介護を必要とする方が対象。 ショートステイは要支援の認定も利用可能。				
事業所名	住所	電話番号	その他	地図
成仁杜の里仙台	荒井東2-12-1	289-7111	ショートステイ併設	⑨
■介護認定が無くても利用できる施設				
事業所名	住所	電話番号	その他	地図
らぼーるはるかぜ (サービス付き高齢者向け住宅)	荒井7-3-1	390-0223	随時見学可能	⑤
千年の杜仙台 (ケアハウス：自立度高めの方)	荒井東2-12-1	289-5111		⑨
ニチイケアセンター仙台東若林 (有料老人ホーム)	荒井3-27-7	288-1761	隣接のニチイキッズ園児との交流あり	⑬

表2 病院・受診・薬について¹²⁾

◇◆病院・受診・薬について◆◇



■在宅診療をお考えの方(まずは電話にてご相談ください)

医療機関名	住所	電話番号	休診日・その他	地図
堀田修クリニック	六丁の目南町2-39	390-6033	■休診日■ 木曜日午後・土曜日午後 日曜日・祝日	1

■脳外科・メンタルクリニック

※画像診断は、他の医療機関で行う場合もあります。

医療機関名	住所	電話番号	休診日・その他	地図
あらいメンタルクリニック	荒井2-1-10	393-6290	■休診日■ 木曜日・日曜日・土曜日午後 祝日・夏季・年末年始	2

■薬局

薬の管理方法や飲み方などの相談ができます。

薬局名	住所	電話番号	定休日・その他	地図
すず薬局六丁の目店	六丁の目南町2-40	762-7151	■定休日:土曜日午後・日曜日・祝日 ※薬の相談可能。訪問は要相談	3
マリン調剤薬局荒井店	荒井2-18-10	287-3707	■定休日:日曜日・祝日 ※訪問は要相談	4
七郷調剤薬局	荒井3-25-4	288-7373	■定休日:日曜日・祝日 ■土曜日:~12:30 ■水曜日:~17:00 ■木曜日:~20:00 ■月曜日・火曜日・金曜日:~18:30 ※訪問は要相談	5
エムツー調剤薬局	荒井6-2-3	390-5990	■定休日 水曜日午後・土曜日午後・日曜日・祝日・ 夏季・冬季・ゴールデンウィーク・年末年始 ※残薬確認や薬の相談可能 事前連絡があるとスムーズ	6

■訪問看護

医師の指示に基づいて看護師などが自宅を訪問し、褥瘡(床ずれ)の処置や点滴管理などの必要な看護、家族へのアドバイスを行います。

事業所名	住所	電話番号	その他	地図
あおい訪問看護ステーション若林	荒井3-2-2ディオ・ホリⅢ 105	390-7640		7
若林訪問看護ステーション	荒井8-7-4	352-3324	年4回程度『まちの保健室』開催	8

平成30年6月1日 改訂

表3 交流・息抜きができる場所¹²⁾

◇◆交流・息抜きができる場所◆◇(①町内会別)

町内会	サロン名	内容	会場	頻度	地図
上荒井	上荒井 元気アップサロン	体操・ゲーム・歌・お茶飲み	上荒井公会堂	毎月 第3火曜日	A
荒井第2 市営住宅	荒井第2 市営住宅サロン	お話・お茶飲み	荒井第2市営住宅 集会所	毎週水曜日	B
中荒井	中荒井 ふれあいサロン	歌・ゲーム・体操・演芸鑑賞	中荒井公会堂	年4回	C
六丁の目	六丁の目 ふれあいサロン	園児の踊り・歌・講話・お茶飲み等 ※内容が変更になる場合があります	六丁の目 コミュニティーセンター	年4回	D
県営六丁目東 住宅	六丁の目 ニコニコ会	体操・趣味活動・お茶飲み	県営六丁目東住宅 集会所	毎月 第3金曜日	E
荒井南	なないろサロン	体操・制作活動・お茶飲み	荒井南市営住宅 集会所	毎月 第4水曜日	F
下荒井	下荒井 ほのぼのサロン	体操・講話・ゲーム・お茶飲み	下荒井公会堂	2ヶ月に1回 (老人会と合同)	G
荒井広瀬	荒井広瀬 うきうきサロン	講話・お茶飲み	若林訪問看護 ステーション	年4回程度	H
荒井東市営住宅	荒井東 市営住宅サロン	体操・カラオケ等	荒井東市営住宅 集会所	不定期	I
藤田	サロン藤友	麻雀・太極拳・カラオケ・手芸・ そば打ち等	藤田公会堂	ほぼ毎日	J
神屋敷	神屋敷サロン	体操・講話・お茶飲み	神屋敷集会所	2ヶ月に1回	K
神屋敷北	はまなす会	体操・お話・歌・ゲーム・制作	神屋敷北集会所	毎月 第2水曜日	L
笹屋敷	笹屋敷 いきいき教室	体操・講話・ゲーム・お茶飲み	石場集会所	不定期	M

参加希望など、詳細内容については
七郷地域包括支援センターまでお問い合わせください。
電話:288-7581



平成30年6月1日 改訂

表 4 地域活動団体⁸⁾

七郷小エリア
■ 地域活動団体

分類	内 容	分類	内 容
地域コミュニティ	●七郷地区町内会連合会 藤田町内会、世屋敷町内会、神屋敷町内会、四ツ谷町内会、下荒井町内会、中荒井町内会、長島町内会、荒井市惣住宅町内会、上荒井町内会の一部、伊在町内会の一部、六丁の目町内会の一部、奥野八丁目住宅自治会（連合会加入）、奥野八丁目東住宅自治会（連合会加入）、荒井東町内会、荒井広瀬町内会、神屋敷北町内会、荒井南町内会、伊在町内会の一部、満町内会の一部	文化・スポーツ	・体育振興会（七郷小学校区）
安全安心	●仙台南地区七郷防犯・防災協会 ●仙台南地区交通安全協会七郷支部 ●仙台南地区交通指導隊七郷分隊 ●警察：・荒井交番（荒井二丁目2番地の14） ●消防：・若林消防署（遠見塚2-25-20：遠見塚小エリア） ●仙台南地区若林消防団七郷分団 ●仙台南地区若林地区婦人防災クラブ七郷連合支部		
健康福祉（高齢・障害等）	・老人クラブ：下荒井老人クラブ ほのぼの会、世屋敷長寿会、中荒井長寿会、六丁の目長寿会 ・地区社会福祉協議会 ・地区民生委員児童委員協議会 ・地区赤十字奉仕団 ・地区共同募金会	その他	
子供・教育	・七郷ひまわりの会：育児サークル（七郷市民センター） ・下荒井公会堂育児サロン（下荒井公会堂 荒井七丁目17-6） ・乳幼児室内あそび場 ちびひろ（上荒井公会堂 荒井字高屋敷7-15） ・七郷地区児童福祉協議会 ・七郷小学校社会学級		

七郷小エリア

分類	内 容	分類	内 容
その他	・仙台荒井郵便局（所在地：荒井二丁目2番地の12） ・荒井東郵便局（所在地：荒井東一丁目6番地の5） ・七十七銀行荒井支店（所在地：荒井東二丁目7番地の1） ・七十七銀行八丁目支店（所在地：八丁の目南町4-5） ・JA仙台南 七郷支店（所在地：荒井四丁目2-5番地の1） ・社団法人信用金庫七郷支店（所在地：荒井三丁目5番地の7） ・荘内銀行荒井支店（所在地：荒井東一丁目6番地の6） ・七郷証明発行センター（所在地：荒井三丁目7番地の2） ・七郷保健センター（所在地：荒井三丁目7番地の2） ・衛生研究所（所在地：荒井東二丁目5番10号）		

■ 地域イベント等

名称	概要
七郷市民まつり	時期：11月下旬 場所：七郷市民センター 荒井三丁目7番地の2

仙台市荒井東(一期)地区災害公営住宅 完成資料

住宅名	仙台市荒井東市営住宅				
所在地	仙台市若林区荒井字広瀬東29外				
敷地面積	17,890㎡	建築面積	1,758㎡	延べ床面積	13,084㎡
住宅概要	整備手法		直接建設		
	建て方		共同住宅		
	構造		RC造		
	階数		11階		
	棟数		1棟		
	タイプ別戸数	2K	74戸		
		2LDK	2戸		
		3K	61戸		
		4K	40戸		
		4DK	20戸		
計		197戸			
※2LDK：車椅子住戸					
団地全体 1棟 197戸					
付属施設	集会所				
総工事費	2,693百万円	工期	平成24年10月～平成27年2月		
特徴	・建物の高層化により敷地中央に広い空間を確保し、地域住民との交流拠点となる開放型広場の整備				
外観		外観			
					
内部		内部			
					

図 17 荒井東市営住宅の概要¹⁴⁾

仙台市荒井東(第二期)地区災害公営住宅 完成資料

住宅名	仙台市荒井東市営住宅				
所在地	仙台市若林区荒井字広瀬東26外				
敷地面積	7,556㎡	建築面積	986㎡	延べ床面積	7,231㎡
住宅概要	整備手法		直接建設		
	建て方		共同住宅		
	構造		RC造		
	階数		11階		
	棟数		1棟		
	タイプ別戸数	2K	22戸		
		2DK	2戸		
		3K	30戸		
		4K	39戸		
		4DK	8戸		
	計	101戸			
※2DK：車椅子住戸			団地全体 2棟 298戸		
付属施設	集会所（第一期と共用）				
総工事費	1,853百万円	工期	平成25年10月～平成27年5月		
特徴	・建物の高層化により敷地中央に広い空間を確保し、地域住民との交流拠点となる開放型広場の整備				
外観		外観			
					
内部		内部			
					

図 18 荒井東市営住宅の概要¹⁴⁾

3.荒井地区に関する出来事について

荒井東災害公営住宅に居住する住民が体験した荒井地区における出来事およびそれらへの意味づけについて検討するため、河北新報データベース¹⁵⁾を用い、「荒井東」をキーワードとして検索された記事を抽出した。

それらを時系列に沿って整理したところ、東日本大震災およびその被災者に関連する記事として、①防災集団移転および災害公営住宅に関する検討、②防災集団移転および災害公営住宅の整備、③防災集団移転および災害公営住宅への入居、外部からの支援活動④自治組織の立ち上げ、外部からの支援活動という経過が見受けられた。

また、荒井地区の開発やまちづくりに関連する記事として、①地下鉄東西線の開業、②荒井地区への各種生活資源(駅、店舗、金融機関、治安機関、保健・医療福祉機関)の整備、進出、一般の戸建住宅団地の整備という経過が見受けられた。そして、これら双方の経過が関連付けられる形で「まちづくり」の活動が展開されてきた、という特徴が明らかとなった(表 5～表 12)。

そこで、これら 2 つの分類について、記事数を分析したところ、防災集団移転および災害公営住宅の検討、整備、そして入居が一段落する 2014(平成 26)年度半ばまでは、東日本大震災およびその被災者に関連する記事が多く、2015(平成 27)年度以降は、荒井地区の開発・まちづくりに関する記事が多いという傾向が見受けられた。

また、東日本大震災およびその被災者に関する記事として、2014(平成 26)年度までは、震災からの復興に向けた記事が多数を占めていたが、2015(平成 27)年度以降は激減し、さらに 2017(平成 29)年度以降は、「災害住宅家賃を仙台市が誤徴収/荒井東など 119 世帯分(2017/5/27)」「仙台・災害住宅家賃問題/引き上げに反対来月署名提出へ/入居者会見(2017/6/1)」「宮城・本年度 収入超過世帯/災害公営住宅 家賃 9 万円増も/岩手では減免措置(2018/4/6)」「災害公営住宅男性孤独死か/仙台(2018/12/29)」など、震災からの復興や被災者の生活上の困難さを示す記事が目立つようになっていた(表 13、図 19～図 20)。

表 5 東日本大震災以降の新聞記事一覧（荒井東）¹⁵⁾

2011（平成 23）年 4 月 1 日から 2012（平成 24）年 3 月 31 日

整理 番号	種類	発行日	見出し	分類
1	朝刊	2011/6/1	東日本大震災／仙台市、災害住宅2000戸を整備／第1期は2013年度、4地区に600戸	1
2	朝刊	2011/8/23	2011仙台市議選 復興市政を問う(3)／地下鉄東西線／費用対効果、期待と不安	1
3	夕刊	2011/10/12	動き始めた復興計画・仙台(5完)／移転先どこに(仙台市宮城野区・蒲生地区 若林区・荒浜、藤塚地区)具体案見えぬ地区も	1
4	朝刊	2011/11/26	東日本大震災／東部沿岸地域住宅再建／移転対象の8割容認／仙台市住民調査区域外も3割	1
5	朝刊	2012/1/24	次世代型都市「スマートシティ」／仙台・荒井東で事業構想／日立とNTTグループ4社／大規模太陽光発電を導入	2
6	朝刊	2012/1/26	仙台・荒井東「スマートシティ」構想／地元と本格協議開始／日立とNTTグループ3月末めどに新組織	2
7	朝刊	2012/1/30	東日本大震災／「住みよい街をみんなの声で」／移転協議会スタート／仙台・荒浜	1
8	朝刊	2012/2/2	どうなる地域再建 仙台・集団移転をめぐって(下)／決まらぬ移転先／希望の土地、実現に壁	1
9	朝刊	2012/2/17	東日本大震災／仙台沿岸部「集団移転先で再建」半数／対象住民に市が意向調査 復興住宅22%希望／集合と戸建て、拮抗	1
10	朝刊	2012/2/17	石巻・牡鹿半島にメガソーラー／東北最大、2013年8月稼働／東京・石巻2社	2
11	朝刊	2012/3/2	東日本大震災／復興公営住宅・集合タイプ／家賃、市営住宅と同水準／仙台市方針 戸建て1万～2万円高く	1
12	朝刊	2012/3/3	東日本大震災／復興交付金、第1回配分決定／東北に2480億円／宮城、要求の6割弱	1

※個人の見解を取り上げた記事等を除く

※分類 1：東日本大震災に関連した記事、分類 2：荒井地区の開発・まちづくり等に関連した記事

表 6 東日本大震災以降の新聞記事一覧（荒井東）¹⁵⁾

2012（平成 24）年 4 月 1 日から 2013（平成 25）年 3 月 31 日

整理 番号	種類	発行日	見出し	分類
13	朝刊	2012/4/11	仙台・荒井東「スマートシティー」構想／清水建設など新たに5社参加／震災復興、街づくりに意欲	2
14	朝刊	2012/5/9	東日本大震災／仙台市の復興公営住宅整備概要／開放型広場で交流促進／田子西など4地区分公表	1
15	朝刊	2012/5/11	東日本大震災／仙台沿岸部の移転先、荒井地区が人気／居住者の7割が申出書提出	1
16	朝刊	2012/5/29	東日本大震災／災害公営住宅、整備開始1597戸／宮城県まとめ	1
17	朝刊	2012/8/25	被災宅地復旧など補正予算案86億円／仙台市提出へ	1
18	朝刊	2012/9/3	東日本大震災／集団移転事業／仙台市「荒井駅北を除外」／説明会始まる／宅地抽選は11月から	1
19	朝刊	2012/10/19	東日本大震災／復興公営住宅に桜の植樹費寄付／仙台グリーンライオンズク	1
20	朝刊	2012/10/24	東日本大震災／仙台市の集団移転先、荒井西と荒井南／雨水対策、排水管整備で調整池は造成せず／宅地確保、工期短縮も	1
21	朝刊	2012/11/2	東日本大震災／災害公営住宅、事業着手2777戸／宮城・10月末現在	1
22	朝刊	2013/1/23	仙台・荒井東「スマートシティー」構想／2015年度実現へ推進母体／参加企業と地元地権者／具体的取り組み協議	2
23	朝刊	2013/1/29	仙台・荒井東「スマートシティー」構想／荒井東まちづくり協フォーラム／スマートシティー学ぶ／「ビジネスにも便利な街に」	2
24	朝刊	2013/1/31	仙台・若林署、荒井東に建設／県、用地5800平方メートル取得	2
25	朝刊	2013/2/1	仙台・若林署、2017年度完成目指す／荒井東に新設決定／住民避難場所も確保	2
26	朝刊	2013/3/9	東日本大震災／復興進むー被災地からの報告／宮城・女川町、仙台／地元企業奮闘で活力 元気なまちづくりへ交流	1

※個人の見解を取り上げた記事等を除く

※分類 1：東日本大震災に関連した記事、分類 2：荒井地区の開発・まちづくり等に関連した記事

表 7 東日本大震災以降の新聞記事一覧（荒井東）¹⁵⁾

2013（平成 25）年 4 月 1 日から 2014（平成 26）年 3 月 31 日

整理 番号	種類	発行日	見出し	分 類
27	朝刊	2013/4/24	東日本大震災／災害住宅の省エネ、運用事業者募集／仙台市、25日説明会	1
28	朝刊	2013/4/27	東日本大震災／仙台・集団移転／田子西地区宅地申し込み／市、5月11日開始	1
29	朝刊	2013/5/1	東日本大震災／災害公営住宅、3566世帯が入居希望／仙台市調査／6月に募集方法公表	1
30	朝刊	2013/6/7	東日本大震災／災害公営住宅、各棟に一般抽選枠／世代多様化、孤立防ぐ／仙台市	1
31	朝刊	2013/7/3	東日本大震災／仙台・荒浜まちづくり協、夏祭りで住宅相談会／7日・サンピアにブース 集団移転、スムーズに	1
32	朝刊	2013/7/12	東西線の宿題 100万都市の断面 震災後の仙台(中)／沿線開発／地権者同意、地域で濃淡	2
33	朝刊	2013/7/13	東日本大震災／住宅再建の相談会も／仙台・荒浜まちづくり協が夏祭り／元住民ら集団移転に備え	1
34	朝刊	2013/7/16	東日本大震災／仙台・若林の復興住宅／市、電力供給システムの担当事業者を選定	1
35	朝刊	2013/7/26	100万都市の断面 震災後の仙台／将来の維持費どう減らす／災害公営住宅・かさ上げ道路…／国の補助見込めず／厳しい財政、対策必要	1
36	朝刊	2013/8/28	東日本大震災／新生活をイメージしやすく／仙台市、災害公営住宅の冊子作成 間取り、周辺情報一目で	1
37	朝刊	2013/9/4	東日本大震災／仙台の災害公営住宅／タクシー送迎、下見サポート／県協会地区総支部 9月中旬から、貸し切り運賃3割引きに	1
38	朝刊	2013/9/22	東日本大震災／仙台・集団移転／荒井東地区の宅地、29日受け付け開始	1
39	朝刊	2013/10/10	東日本大震災／仙台・集団移転／荒井東51区画、22世帯分決定	1
40	朝刊	2013/10/20	東日本大震災／災害公営住宅の入居者2次募集、21日開始／仙台市	1
41	朝刊	2013/11/5	東日本大震災／災害公営住宅200戸増設／仙台市、2015年度入居／計3200戸に	1
42	朝刊	2013/11/12	東日本大震災／災害公営住宅16%着工／宮城県内・10月末	1
43	朝刊	2013/11/30	東日本大震災／災害公営住宅6棟の募集開始／「一般抽選」対象／仙台市	1
44	朝刊	2014/1/1	東北再生 あすへの針路／提言から見る現状と課題／本格復興へ転換の年	1
45	朝刊	2014/1/22	東日本大震災／初抽選、209戸決まる／災害公営住宅、仙台市一般枠	1
46	朝刊	2014/2/6	東日本大震災3年／被災地のいま(5完)／内陸避難の葛藤<下>／自治体、定住支援に苦慮／沿岸人口流出懸念／被災者意向も大切	1
47	朝刊	2014/3/26	東日本大震災／公営住宅完成、初の民間整備／仙台・若林	1

※個人の見解を取り上げた記事等を除く

※分類 1：東日本大震災に関連した記事、分類 2：荒井地区の開発・まちづくり等に関連した記事

表 8 東日本大震災以降の新聞記事一覧（荒井東）¹⁵⁾

2014（平成 26）年 4 月 1 日から 2015（平成 27）年 3 月 31 日

整理 番号	種類	発行日	見出し	分類
48	夕刊	2014/4/4	地下鉄がやって来る 仙台市東西線15年開業(2)／荒井／街づくり、いっきに加速	2
49	朝刊	2014/4/8	東日本大震災／仙台・災害公営住宅／集合型の入居本格化／4地区564戸分住民に鍵引渡し	1
50	朝刊	2014/4/8	東日本大震災／仙台・災害公営住宅／環境の変化、近所付き合い…／コミュニティ形成課題	1
51	朝刊	2014/7/8	東日本大震災 焦点／仙台市の災害公営住宅／「ペット帯同」「車いす」限定 ミスマッチ空室 1 割超	1
52	朝刊	2014/8/28	東日本大震災／被災地の野菜お届け／仙台・移動販売店、30日オープン／大学生団体運営農家の思いも紹介	1
53	朝刊	2014/9/4	東日本大震災／被災地産野菜に人だかり／大学生ら移動販売開始／仙台・若林	1
54	朝刊	2014/9/7	東日本大震災から3年半 焦点／災害公営住宅(下)／新たな自治組織、産声	1
55	朝刊	2014/9/29	東日本大震災／新たな絆育てよう／災害公営住宅に町内会／仙台・若林「荒井東」と宮城野「田子西」／10月活動スタート	1
56	朝刊	2014/10/8	東日本大震災／エレベーター2基に不具合／仙台・荒井東の災害公営住宅	1
57	朝刊	2014/10/12	東日本大震災／木々と共に新町内会歩む／仙台「荒井東復興公営住宅」で植樹	1
58	夕刊	2014/10/18	再生せんだい ひと模様(116)／ReRoots(リルーツ)販売チームリーダー 宮川あかりさん(19) 被災農家の野菜、災害住宅で販売／地元の人々つなげたい	1
59	朝刊	2014/10/24	東日本大震災／トルコ政府高官、復興状況を視察／仙台	1
60	朝刊	2014/11/13	仙台・荒井東に初のマンション／発展見込み122戸分譲へ	2
61	朝刊	2014/12/12	心を癒やす優しい音色／中高生がハンドベル演奏／仙台・災害公営住宅	1
62	朝刊	2015/1/1	仙台市地下鉄東西線 12月6日開業予定／伊達な街、新局面へ／十字描く軌道、効果に期待	2
63	朝刊	2015/1/8	東日本大震災／仙台市の災害公営住宅／433戸2次募集	1
64	朝刊	2015/2/13	東日本大震災／仙台市の災害公営住宅／164世帯が当選／「一般枠」2次募集分	1
65	朝刊	2015/2/17	宮城県2014年度補正予算案／1290億円減額補正へ／復旧事業の遅れ影響	1
66	朝刊	2015/2/18	宮城県議会開会／「創造的復興を完遂」／村井知事が施政方針	2
67	夕刊	2015/2/27	12月開業 空から拝見 仙台市地下鉄東西線かいわい／13駅目 荒井	2
68	朝刊	2015/2/28	2015 学生駆ける～地域の明日へ～(3)／東北・新潟8新聞社共同企画 農家と消費者の架け橋に	1
69	朝刊	2015/3/1	再生の針路 (1)仙台市／住まい再生 集団移転 造成完了へ／復興の鍵 新旧住民 融和促進を	1
70	夕刊	2015/3/11	みらいん ゆうかん 3月号 新旧住民の共助目指す	1
71	朝刊	2015/3/23	荒井東に町内会／仙台／集団移転住民ら設立	1

※個人の見解を取り上げた記事等を除く

※分類 1：東日本大震災に関連した記事、分類 2：荒井地区の開発・まちづくり等に関連した記事

表 9 東日本大震災以降の新聞記事一覧（荒井東）¹⁵⁾

2015（平成 27）年 4 月 1 日から 2016（平成 28）年 3 月 31 日

整理 番号	種類	発行日	見出し	分類
72	朝刊	2015/4/11	地下鉄東西線／沿線のにぎわい 創出へ知恵絞る／仙台でセミナー	2
73	朝刊	2015/4/18	地下鉄東西線／荒井駅駐車場 200台に／仙台市／来月から委託業者募集	2
74	朝刊	2015/5/21	区画整理中／路上駐車に住民苦慮／仙台・荒井東で問題化／私道扱いでモラル頼み	2
75	朝刊	2015/6/20	仙台・東西線／荒井駅前 大規模開発へ／大和ハウス／ホールなど建設	2
76	朝刊	2015/7/15	千葉・富里市農協／仙台の被災者に特産スイカ贈呈	1
77	夕刊	2015/7/22	やりましょう盆踊り 深めましょう交流を／来月1日、仙台・荒井東の災害住宅／みこしやスイカ割りも	1
78	朝刊	2015/8/2	駆ける 踊る 一緒に／被災地夏祭り 2町内会合同 笑顔の輪拡大／仙台・荒井東	1
79	朝刊	2015/9/18	仙台市／対象外被災者にも分譲／集団移転地 来月から公募	1
80	朝刊	2015/9/26	東北ミニ情報 荘内銀 荒井支店開設へ	2
81	朝刊	2015/11/1	結ぶ・切り拓く 仙台市地下鉄 東西線開業まで1ヵ月 (1)二つの起点駅／開発熱 際立つ温度差	2
82	夕刊	2015/12/4	こちら荒井臨時支局です 荒井東でわいわい／12、13日 街開きイベント「あらフェス」／復興への誓い、東西線開通／交流広げる第一歩	2
83	朝刊	2015/12/10	仙台市地下鉄東西線 荒井に商機 支店続々／東北の銀行／集団移転や宅地開発／ローン需要に照準	2
84	夕刊	2015/12/12	こちら荒井臨時支局です 復興へ一歩 荒井東から／街開きイベント「あらフェス」開幕／地元住民／料理、地酒でもてなし	2
85	朝刊	2015/12/13	仙台市地下鉄東西線 街開き 復興の息吹／荒井東で「あらフェス」開幕	2
86	夕刊	2015/12/18	こちら荒井臨時支局です Xマス会、みんなに笑顔を／荒井東・災害公営住宅入居者ら／20日開催／歌・ゲーム 準備着々	1
87	朝刊	2015/12/31	住まいの再建 着々／2015年 首長の言葉で振り返る／ゆったりした部屋で新生活を／まちびらき 共に力合わせて	1
88	夕刊	2016/2/3	地下鉄がやって来た 仙台・東西線13駅 開業1ヵ月(13完) 荒井／新しい街は胎動段階	2
89	朝刊	2016/2/23	集団移転用地／空き区画 被災者以外にも／仙台市、山元町 分譲へ	2
90	朝刊	2016/3/17	仙台／被災者以外にも宅地分譲／来月5日受け付け	2

※個人の見解を取り上げた記事等を除く

※分類 1：東日本大震災に関連した記事、分類 2：荒井地区の開発・まちづくり等に関連した記事

表 10 東日本大震災以降の新聞記事一覧（荒井東）¹⁵⁾

2016（平成 28）年 4 月 1 日から 2017（平成 29）年 3 月 31 日

整理 番号	種類	発行日	見出し	分類
91	朝刊	2016/4/20	仙台市・防災集団移転 ◎用地／東西線効果か／荒井の一括分譲 4社応募	2
92	朝刊	2016/5/19	地元住民らが手仕事市開催／仙台・荒井で22日	2
93	夕刊	2016/7/22	青空の下 交流を／仙台・荒井東災害住宅／ゲートボール用具を日本連合寄贈／「健康や生きがいづくりに」	1
94	朝刊	2016/8/23	奥山流の座標 仙台市長2期目 残り1年(中)安定の実相／「市役所一家」の声 再び	1
95	朝刊	2016/9/15	肢体不自由者らの人形劇団「フレッシュ」／災害住宅に笑顔運ぶ／仙台で公演・17～19日／「一緒に楽しんで」	1
96	朝刊	2016/10/9	YOSAKOI 160チーム熱演舞／仙台・きょうまで	1
97	朝刊	2016/11/23	東西線開業1周年／荒井車両基地で27日フェス開催	2
98	夕刊	2016/12/19	消える小字／区画整理で来夏ごろ大規模地番変更／仙台・荒井／歴史、愛着名残惜しむ声も	2
99	朝刊	2017/1/4	仙台市、荒井の公園にフットサル場／都市再生法人に運営委託／全国初／利益を維持費に／東西線の利用促進も期待	2
100	朝刊	2017/1/5	仙台市長年頭会見／本庁舎建て替え 来月方針／音楽ホール 判断先送りも	2
101	夕刊	2017/2/24	仙台・長喜城 農地を宅地化／東西線・荒井駅へ1キロ／19年分譲／300人住む街へ	2
102	朝刊	2017/3/21	気持ち 明るく／話して 聴いて 災害住宅でお茶会／仙台・若林	1

※個人の見解を取り上げた記事等を除く

※分類 1：東日本大震災に関連した記事、分類 2：荒井地区の開発・まちづくり等に関連した記事

表 11 東日本大震災以降の新聞記事一覧（荒井東）¹⁵⁾

2017（平成 29）年 4 月 1 日から 2018（平成 30）年 3 月 31 日

整理 番号	種類	発行日	見出し	分類
103	朝刊	2017/4/22	災害に強い庁舎目指す／県警／仙台・若林署の概要公表	2
104	夕刊	2017/4/22	被災地医療の即戦力に／仙台・荒井／看護専門学校が開校／「災害看護学」も履修／1期生82人 意欲の春	2
105	朝刊	2017/4/25	台湾の自転車メーカー／ジャイアント 仙台に直営店／ツール・ド・東北 パートナー企業／9月15日開店	2
106	朝刊	2017/5/1	教訓胸に／深／荒井東町内会 4周年で祭り／仙台・災害公営住宅	1
107	朝刊	2017/5/3	演劇やお笑い にぎわい創出／仙台ギグス落成式	2
108	朝刊	2017/5/11	サイクリング文化発信／ジャイアントが店舗着工／仙台	2
109	朝刊	2017/5/27	災害住宅家賃を仙台市が誤徴収／荒井東など119世帯分	1
110	朝刊	2017/6/1	仙台・災害住宅家賃問題／引き上げに反対 来月署名提出へ／入居者ら会見	1
111	朝刊	2017/7/12	荒井で育て J選手／ベガルタ仙台 ジュニアスクール開校へ／公園内施設で9月から	2
112	朝刊	2017/8/24	荒井駅周辺 街歩き楽しんで／仙台・来月3日フェス	2
113	朝刊	2017/9/2	仙台・荒井 公園内スポーツパーク／元気な街へキックオフ／民間運営 サッカースクールも開校	2
114	朝刊	2017/9/13	仙台・荒井／地名 小から丁目に／市、16日180ヘクタールで地番変更	2
115	朝刊	2017/10/17	津波で全壊 仙台荒浜郵便局移転／「荒井東」に改称・再開	2
116	朝刊	2017/11/29	荒井西の新町名「なないろの里」／仙台市、来年6月施行へ	2
117	夕刊	2017/12/21	荒井駅周辺 医療整備進む／新病院開業、モールも建設中／仙台／東西線沿線人口増に対応	2
118	朝刊	2018/2/9	新たな人の流れ期待／荒井の区画整理 31年越しの完成／仙台市が竣工式	2

※個人の見解を取り上げた記事等を除く

※分類 1：東日本大震災に関連した記事、分類 2：荒井地区の開発・まちづくり等に関連した記事

表 12 東日本大震災以降の新聞記事一覧（荒井東）¹⁵⁾

2018（平成 30）年 4 月 1 日から 2019（平成 31）年 12 月 31 日

整理 番号	種類	発行日	見出し	分類
119	朝刊	2018/4/8	憩いの場 荒井の顔に／「東1号公園」全面オープン／仙台	2
120	朝刊	2018/4/26	宮城・本年度 収入超過世帯／災害公営住宅 家賃9万円増も／岩手では減免措置	1
121	朝刊	2018/6/15	ようこそ「なないろの里」／荒井西 あす町名変更／仙台	2
122	朝刊	2018/7/14	仙台で来月横綱土俵入り	1
123	朝刊	2018/8/14	震災復興願い 横綱土俵入り／仙台	1
124	朝刊	2018/9/2	仙台・荒井 祭りづくし／「あらフェス」「バス・ちか祭り」／きょう	2
125	朝刊	2018/11/1	仙台市花壇コンクール／最優秀賞に旭丘小	1
126	朝刊	2018/11/1	都市公園コンクール／仙台・荒井TM 会長賞を受賞／市長に報告	2
127	朝刊	2018/12/29	災害公営住宅 男性孤独死か／仙台	1

※個人の見解を取り上げた記事等を除く

※分類 1：東日本大震災に関連した記事、分類 2：荒井地区の開発・まちづくり等に関連した記事

表 13 東日本大震災以降の新聞記事一覧（荒井東）分類別

本（％）

	東日本大震災関連	荒井地区の開発・まちづくり	計
2011(平成 23)年度	9(75.0)	3(25.0)	12(100.0)
2012(平成 24)年度	9(64.3)	5(35.7)	14(100.0)
2013(平成 25)年度	20(95.2)	1(4.8)	21(100.0)
2014(平成 26)年度	19(79.2)	5(20.8)	24(100.0)
2015(平成 27)年度	6(31.6)	13(68.4)	19(100.0)
2016(平成 28)年度	5(41.7)	7(58.3)	12(100.0)
2017(平成 29)年度	3(18.8)	13(81.3)	16(100.0)
2018(平成 30)年度	5(55.6)	4(44.1)	9(100.0)
計	76(59.8)	51(40.2)	127(100.0)

※2018 年度のみ 12 月 31 日現在まで

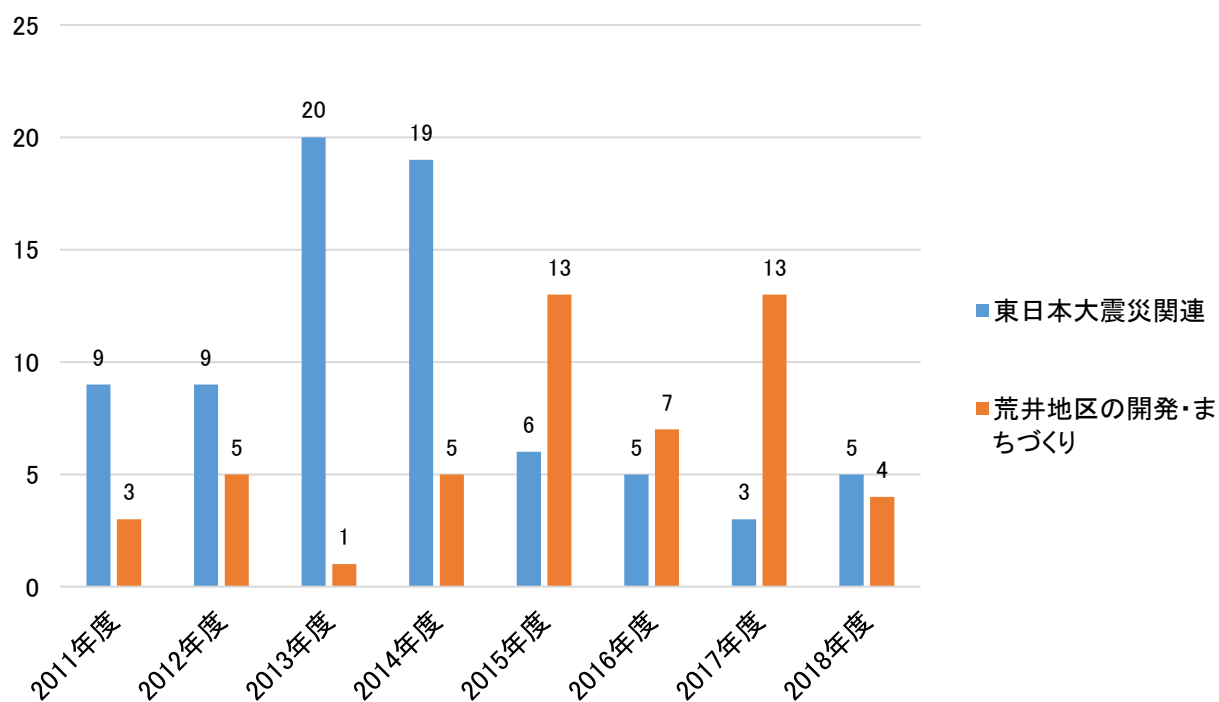


図19 東日本大震災以降の新聞記事本数の推移(荒井東)

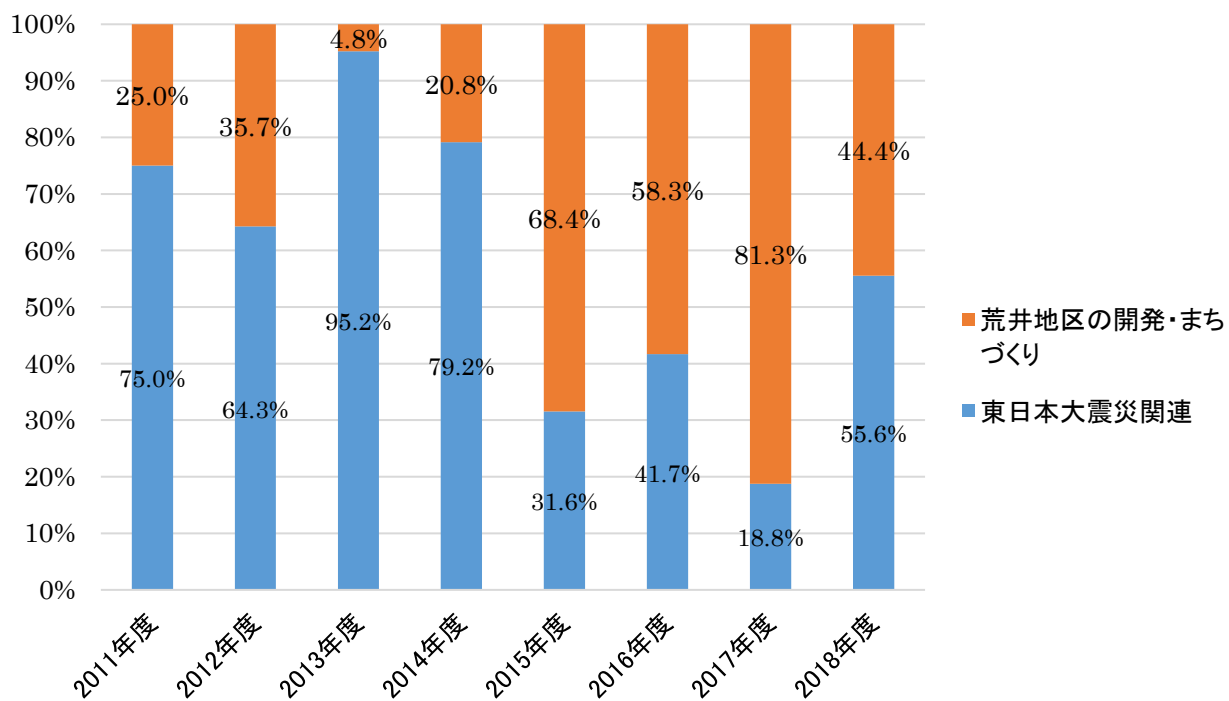


図20 東日本大震災以降の新聞記事割合の推移(荒井東)

※2018年度のみ12月31日まで

IV. 考察

1. 荒井東災害公営住宅に居住する地域住民の生活と健康課題とその関連要因について

1) 荒井地区の人口構造の特徴と健康課題

荒井地区の人口構造の特徴としては、全体的に生産年齢人口割合が高い中、災害公営住宅を含む荒井東2丁目のみ、老年人口割合が高いことが明らかとなった。そして、男性は前期高齢者の割合が高く、女性は後期高齢者の割合が高いということも明らかとなった。また、このように、荒井地区は全体的に生産年齢人口の割合が非常に高く、一見すると高齢化の進行には至っていない。しかし、生産年齢人口の中には就業している者も多いことを考慮すると、実際の人口に比して昼間人口が非常に少ないことが予測される。さらに幼稚園児、小学生、中学生が就学中であることも踏まえると、老年人口割合が低い地域も含め、日中、荒井地区の住宅地で生活しているのは高齢者が大多数を占めることも予測される。

高齢社会白書¹⁶⁾によると、75歳以上になると要介護の認定を受けている人の割合が大きく上昇する。また、介護が必要になった原因としては、「認知症」が最も多く、次いで「脳血管疾患」「高齢による衰弱」「骨折・転倒」があり、男性は「脳血管疾患(脳卒中)」、女性が「認知症」が特に多くなっていることが挙げられている。これは、荒井東災害公営住宅に居住する住民にも想定されることである。

また、東北福祉会¹⁷⁾によると、荒井東震災公営住宅(荒井東市営住宅)に居住する住民のうち、調査に協力が得られた対象について、世帯人数は2人が45世帯、独居が21世帯となっており、また独居世帯は60代が8人、70代が7人、80代が3人となっていた。また2人世帯のうち70歳以上の夫婦世帯が18世帯となっていた(いずれも2016(平成28)年度データ)。このような単身世帯や高齢世帯において介護を要する状態になるということは、老老介護や孤独死のリスクの上昇にもつながると考えられる。

さらに、東北福祉会¹⁷⁾によると、健康について困っていることがあるとの回答した世帯は43%にのぼり、整

形疾患、内科疾患を挙げた世帯がそれぞれ約30%ずつであった。また、辻¹⁸⁾によると、若林区荒井東地区の震災公営住宅居住者は、主観的健康感が「あまりよくない」者が22.2%、「よくない」者が4.4%、アテネ不眠尺度による睡眠障害も、6点以上の「睡眠障害が疑われる」者の割合が40.0%と、荒井東地区防災集団移転団地居住者より高くなっていた。

大規模災害における保健師の活動マニュアル¹⁹⁾によると、「フェーズ5-2復興支援期・後期」においては、起こりうることとして、「長引く被災生活のストレスが蓄積する」「被災者の高齢化に伴い、要介護者が増加する」「死亡や転出入による家族構成の変化が進む。地域によっては、若い世代の流出による人口減少と高齢化の進行や単身世帯の増加が予想される。」「生活不安から抑うつ傾向が増加する。自殺者が増加する。」「住み慣れてきた仮設、復興住宅から再び移動することに伴い、環境に馴染めずに新たな健康問題が起こる」「外部支援が終了する」が挙げられている。

これらは、荒井東災害公営住宅に居住する住民にも想定される内容であり、住居の種類や生活背景を踏まえた介護予防活動およびメンタルヘルス対策の必要性、高齢者の日中の生活行動に着目したソーシャルサポート構築の必要性が示唆された。

2) 荒井地区の生活圏の特徴と健康課題

荒井東災害公営住宅に居住する住民の生活圏として、荒井地区の物理的環境、生活資源およびそれらへのアクセスについて検討した。物理的環境としては、地区内はほぼ平坦であり、起居移動動作能力が低い住民に配慮されていること、歩道の整備、信号機の整備も適宜であり、安全確保されていることが明らかとなった。また生活資源として、金融機関、公的機関、店舗も散在しており、利便性は高い。また、保健・医療・福祉機関も数多く存在し、地域住民の交流・息抜きを意図した活動も多く行われている。

その一方で、東北福祉会¹⁷⁾が2016(平成28)年度に実施した調査によると、日常生活について困っている事、心配な事として、約30%が「ある」と回答し、「交通インフラ」に関することが19%、「スーパーがない」

が15%となっていた。また、外出についても37%が「ある」と回答し、「バスが少ない」「地下鉄が遠い・乗れない」「スーパーが遠い(重い荷物を持って歩行できない等)」「病院が遠い」「タクシー代が高い」等の回答が得られている。

この調査が実施されてから2年が経過し、生活圏における各種生活資源は増加し、利便性は向上していると推測されるが、その一方で、荒井東震災公営住宅に居住する高齢者の回答を踏まえると、生活者の主観的な利便性とのギャップが生じている可能性も考えられる。たとえば、徒歩を移動手段の中心とした場合、後期高齢者にとっては、歩行補助具を使用したとしても、ある程度の移動距離・時間的な持久性が必要になると思われる。また、住み慣れない環境において、各種生活資源の場所と道順を記憶すること、場合によっては、エレベータや信号機の操作も必要となる。さらに、これらの生活資源は、外出という主体的行動が伴ってはじめて可能となるものである。加齢に伴うADLの低下、認知機能の低下に加え、メンタルヘルスにも関連した生活不活発、家族や地域における役割の喪失、生きがいの喪失は、外出意欲の低下や外出機会の減少を招き、さらなるADLの低下、閉じこもり、社会的孤立を招く可能性もある。

これらのことより、地域住民のADLの低下を予防するための方策として、起居移動動作能力測定(能力の把握と提示)、活動状況把握、起居移動動作に影響する疼痛有無調査、ならびに、認知機能、外出意欲や外出機会の維持向上に向けた方策が必要であると考えられた。

3) 荒井地区での出来事に対する意味づけと健康課題

荒井東地区に着目した新聞記事を分析したところ、荒井東震災公営住宅に居住する住民は、これまでも、そして現在も東日本大震災の影響を受けつつ生活を営んできたことが浮き彫りとなった。東日本大震災後3か月から復興計画が始まったものの、移転先など具体的検討には大きな問題があり、計画が定まらない状況が続いたこと、そしてそのような経過を経て災害公営住宅に入居し、新しいコミュニティでの生活が開始

されたこと、新しいコミュニティにおいては、住民自治組織が結成され活動を開始し、外部からの被災者支援活動も実施されていたこと、を読み取ることができた。本多²⁰⁾は、仮設住宅から災害公営住宅に入居当初、被災者の「仮設生活とのギャップに悩む高齢者」の様子を浮き彫りにしている。そして、集合住宅型の災害公営住宅の問題として「あえて意識してコミュニケーションを取らないと、近隣の入居者の顔が見えず、鉄扉と厚いコンクリート壁の向こうで、互いがどういう生活をしているのかが分からない」ことを挙げている。荒井東震災公営住宅に居住する高齢者の中には、このような体験をしている被災者も存在することが推測される。

また、その一方で、荒井地区全域では、都市計画(次世代型都市構想・スマートシティー構想)、地下鉄東西線の整備が進められていたこと、そして商業施設等や駐車場、マンションや戸建てが整備され、まちの発展が進行していったことも、読み取ることができた。さらにこれらの経過の中で、「住みやすい街」のためのまちづくり協議会が動き出したり、世代の多様性から「孤独」が懸念され、それを予防するための、夏祭り・盆踊りというコミュニティづくり・交流が図られ、荒井地区全域を対象としたフェスティバルも開催されていたことも読み取ることができた。

しかし、「本格的復興へ」との見出し(2014. 1.1)にあるように、このあたりから、東日本大震災の記事が減少し、まちづくり記事が多くなっていたことを踏まえると、東日本大震災によって大きな影響を受けた被災者にとっては、急激な開発と発展が、自分たち以外の住民ベースで進められていくように認識され、震災の風化、生活の困難感の増強、社会的孤立を実感しながら生活を営んでいる可能性が懸念される。

沖永ら³⁾は、災害公営住宅に住む高齢者の諸問題として、「5年かけて培った仮設生活への順応と、共に耐えてきた近隣住民との絆のリセット」「高い高齢化率と、高齢入居者の殆どが老々ないし独居」「“終の棲家”としての災害公営住宅…予定外の老後」「先祖代々の、または汗して働いて得た土地や家屋など、物的な喪失」「楽しく家族と過ごした過去との決別など、

精神的な喪失」「生きる目的が曖昧な日々(生きがい)、社会との疎遠化と孤立化(社会的役割)」「慣れない高層集合住宅」「仮設高齢者の認知機能は比較的低下傾向…そのまま災害公営住宅に移住」の8つを挙げ、児玉・小木曾²¹⁾は、被災地における復興複合期の現状と支援課題として、災害公営住宅では、「住環境への不適応と孤立や閉じこもり」「コミュニティの再構築」「周辺地域を含めた自治活動の新たな運営」を挙げている。

荒井東災害公営住宅を含む荒井地区には、東日本大震災以前から居住していた住民、災害防災移転団地に居住するようになった住民、災害復興公営住宅に居住するようになった住民、仙台市営地下鉄東西線の開業や荒井地区の開発により居住するようになった住民等、多様な背景を持つ住民が居住している。東北福祉会¹⁷⁾によると、荒井東災害公営住宅(荒井東市営住宅)居住者の多くが仙台市内の沿岸部で被災し、市内での避難生活を経て現住所に移り住んだと思われることが指摘されている。

荒井東災害公営住宅に居住する住民においても、複数回の転居に伴う、住環境や人間関係の劇的な変化を経験している人が多いことが推測され、先の指摘に類似する課題を抱えている可能性、さらには荒井地区の特徴から生じる課題を抱えていることが想定され、地域住民の体験世界を捉え、それらに沿った支援策を講じる必要性が示唆された。

2. 大学シーズと地域ニーズのマッチングによる効果的な地域震災復興支援策の模索に向けて

本研究においては、荒井東災害公営住宅に居住する住民の生活圏である荒井地区に焦点をあて、既存資料の分析を通じ、地域の健康課題とその関連要因の明確化を試みた。その結果、一点目として、荒井東災害公営住宅を含む荒井東2丁目は、他地区と異なり、老年人口割合が高く、高齢者が抱える健康課題と被災者が抱える健康課題の双方を見据えながら、介護予防やメンタルヘルス対策、ソーシャルサポートの構築を講じていく必要があることを示唆した。また二点目として、荒井東災害公営住宅に居住する住民の

生活圏は、物理的環境、生活資源とも整備されているが、その活用においては、外出という主体的行動が伴う必要があること、その行動が生起するためには、ADLの維持と併せ、役割や生きがいの維持・獲得も重要であることを示唆した。さらに三点目として、荒井東災害公営住宅に居住する住民の、荒井地区に関する出来事に対する意味づけにおいては、東日本大震災からの復興に伴う経過の中で、戸惑いや困難を感じている可能性を挙げ、それらに共感し、それらに沿った支援策を講じていく必要性を示唆した。

児玉・小木曾²¹⁾は、復興複合期においては、「居所変化に対応した支援やつながりの継続、取り組みの住民参加によって、『自立支援の視点からの地域支援』が求められており、専門職中心のシステム化や新たなシステムの導入よりも、支え合いや支援の圏域や拠点に関しエリアを保ちつつ、これまで生まれてきた多様な機能・資源をエリア内でネットワーク化し『地域としての支え合いの力』を高めることが有効である」ことを示唆している。また、大規模災害における保健師の活動マニュアル¹⁹⁾においても、復興支援期・後期の留意事項として、「産業振興を含めた地域づくり、まち全体を復興させる取り組みが必要である」「新たな市街地に形成されたコミュニティへの働きかけや、ソーシャルキャピタルの醸成が必要である」が挙げられている。

荒井東災害公営住宅に居住する住民が、その人らしい人生を全うするためには、荒井地区全域を念頭におき、新たなまちを創造していこうとする人々、資源および取り組みが多く存在する中、そのネットワーク、換言すれば「支え合いの力」の一要素として、本学の保健・医療・福祉の総合大学であるという強み、それらの専門職を目指す学生が存在するという強みを生かし、貢献することが求められると考えられる。その際には、住民の体験やそれらへの意味づけに耳を傾け、継続した関心と共感を寄せ、共に歩む姿勢を持つことが重要であろう。

3. 今後の課題

本研究においては、荒井東災害公営住宅居住者の健康課題と関連要因を明らかにする一歩として、荒井

地区に関する既存資料を用いて分析を行った。そのため、先に述べたような、地域住民の生活に対する意味づけやニーズを捉えるまでは至っていない。

次年度においては、地域の中のキーパーソン、地域住民へのインタビュー等を通じて、質的な情報を収集し、今年度に得られた結果と統合して、健康課題とその関連要因を明らかにすること、支援策の試案を作成し、その実現可能性を模索することを課題としたい。

V.おわりに

今年度の研究においては、荒井東災害公営住宅に居住する人々に焦点を当て、既存資料の分析を通じ、荒井地区の人口構成の特徴、荒井地区の生活圏の特徴および住民の体験世界について検討を行った。さらに次年度は、インタビュー等を通じ、質的な情報

を得ることにより、健康課題と関連要因を明らかにし、有効な復興支援策を検討したい。

また、これらの研究活動の過程自体が、荒井東災害公営住宅のみならず、被災地や被災者と共に歩むことを意味し、被災者のその人らしい人生を全うすることに貢献しうる可能性をもった取り組みであることを念頭に置き、引き続き研究活動に取り組んでいきたい。

【謝辞】

「本研究は、東北福祉大学感性福祉研究所において、文部科学省の施設運営支援の助成を得て行われた研究プロジェクト『3.11 を契機とする地域の健康福祉システムの再構築-集中復興期間』後の展開-』の研究成果である。」

【引用文献】

- 1)宮城県公式 Web サイト：復旧・復興の進捗情報・復興の進捗状況（平成 30 年 11 月 11 日版）, <http://www.pref.miyagi.jp/site/ej-earthquake/shintyoku.html>, アクセス日 2018 年 12 月 10 日.
- 2)宮城県公式 Web サイト：平成 29 年度災害公営住宅入居者健康調査結果, <https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/693764.pdf>, アクセス日 2018 年 12 月 10 日.
- 3)沖永壯治・古川勝敏・石木愛子・富田尚希・荒井啓行：老年医学 update-被災地の高齢者医療 災害時における高齢者の救済-東日本大震災の時系列と今後の課題-, 日本老年医学会雑誌, 54 巻 2 号, 2017.
- 4)仙台市公式ホームページ：仙塩広域都市計画事業・仙台市荒井土地区画整理事業竣工記念誌, 2018. <http://www.city.sendai.jp/arai-kanri/kurashi/machi/kaihatsu/tochikukaku/documents/araisyunkoukinensi.pdf>, アクセス日, 2018 年 12 月 10 日.
- 5)金川克子・田高悦子：地域看護診断（第 2 版）, 東京大学出版会, 2011.
- 6)鳩野洋子・島田美喜（編）：公衆衛生実践キーワード・地域保健活動の今がわかる明日がみえる, 医学書院, 2014.
- 7) 仙台市公式ホームページ：統計情報仙台・町名別年齢（各歳）別住民基本台帳人口データ, <http://www.city.sendai.jp/chosatoke/shise/toke/jinko/chomebetsu.html>, アクセス日 2018 年 11 月 9 日.
- 8)仙台市公式ホームページ：地域情報ファイル（七郷小学校区）, <http://www.city.sendai.jp/waka-shinko/kurashi/manabu/chiikikatsudo/chiiki/fuairu/documents/06sichigou2018.pdf>, アクセス日 2018 年 11 月 9 日.
- 9)仙台市：せんだいくらしのマップー小学校区マップ, <https://www2.wagmap.jp/sendaicity/PositionSelect?mid=302>, アクセス日 2018 年 12 月 10 日.
- 10) 仙台市立七郷小学校：地域の概要, <http://www.sendai-c.ed.jp/~sichi-el/H29chiiki.pdf>, アクセス日 2018 年 12 月 10 日.
- 11) ゼンリン：ゼンリン住宅地図, <https://www.its-mo.com/j-map/>, アクセス日 2019 年 1 月 29 日.
- 12) 七郷地域包括支援センター：七郷中学校区認知症ケアパス, 2018.
- 13) 仙台市交通局：仙台市交通局運行系統図 https://www.kotsu.city.sendai.jp/bus/pdf/3004_kasumi.pdf, アクセス日 2019 年 1 月 29 日.
- 14) 宮城県公式 Web サイト：災害公営住宅が完成しました（仙台市）, <https://www.pref.miyagi.jp/site/ej-earthquake/kannsei-sendai.html>, アクセス日 2018 年 12 月 10 日.
- 15) 河北新報：河北新報データベース <https://t21.nikkei.co.jp/g3/CMNDF11.do>, アクセス日 2019 年 1 月 9 日.
- 16) 内閣府：平成 30 年版高齢社会白書・健康・福祉, 2018.
- 17) 東北福祉会：被災回復期の地域包括ケアシステム形成に係るニーズ・意識調査報告書, 2017.
- 18) 辻一郎：健康長寿と地域を元気にするコソ-各復興公営住宅の特徴について・地域でいきいきと生活していくためのポイント, 健幸づくり講演会資料, 2018.
- 19) 日本公衆衛生協会・全国保健師長会：大規模災害における保健師の活動マニュアル, 2013.
- 20) 本多康生：「普通の生活」を取り戻すための高齢者支援-東日本大震災被災地の災害公営住宅を事例として, 福岡大学人文論叢 49（3）, pp.679-711, 2017.

- 21) 児玉善郎・小木曾早苗：東日本大震災被災地の災害公営住宅における住民支え合いの取組みと今後の課題,都市住宅学,99,pp.128-133,2017.